

トリス博士著

新井正平譯

基督者之成功

發兌 東京 中庸堂

2754

1

1

1

1

1

1



基督者之成功

米國ムーデー聖書學館
名譽總長神學博士アル、エ、トローレー原著
日本
新井正平譯

發行所 東京中 庸 堂

明治
40 12 19
丙午

我等の集りに於て公けに基督にあ
る信仰を告白したる各國に散在
する人々に之を献ぐ

著者の序

余は數年間新たに基督者の生涯に入りたる人々の爲に如何にせば彼等が進んで入りたる此の新生涯をして、有終の美を收めしむべきかを教ゆる書物の必要を感じ居りたり。然かも余は斯の如き書を發見するを得ざりき。茲を以て余は筆を執るに至りたる也。此書の目的とする所は新たに悔改めたる青年にして最も多く知らざる可らざる事を示すにあり。余は牧師、傳道士及び其他の基督教々役者が青年悔改者に對して有用の書として思考せられんことを深く希望する所の者なり。尙亦余は長らく基督者として立ちたるも自己の望むが如く其生涯に於て進歩成功

せざる所の人々に對しても有益なる書として承認せられん事を希望に耐へず

はしがき

此書の著者トローラー博士は世界的傳道者也。氏嘗て世界傳道旅行の發端に當りて、我國に渡來し頗る心靈的の集會を催ふし、我等同胞に貢獻する處多かりき。斯の如く世界各國に傳道旅行したるに由り其の基督者の心情と態度とに感化を受けたる者多し。氏は實地傳道の多忙なる身を以てまた克く青年後進者の誘導啓發に勉め、現にシカゴムーデー聖書學館に名譽總長たるの要職に在り。氏の著すところの書は皆心靈的開發に勗むるの書なるを以て治く世に知らる而して此著「How To Succeed in the Christian Life」『譯して「基督者之成功」と稱す』は同氏最近の著にかゝり、氏が

世界傳道旅行より得たる經驗と感想とを聚めて緯とし、多年其長たる校に在りて用ひたる其靈的生命を經として編成したるものなれば、經驗少き青年傳道者及新たに救に入りたる人々の爲には一讀再讀を要する尤も有益なる書の一となす。然り而して余は此書の確に牧會學の或部分を最も平易に教へたる好著なるを信じて疑はず。學校に在りて聞くところは自らを教ゆるよりも卻て他を教ゆるの牧會學書たらざるを得ず、而も此書にありては自ら學ぶの感頗る饒多なるを覺ゆる也。

余は原著者の序を見て同感の情に堪へず、そは新たに基督者となりたるものも三年、五年の後は其靈性甚だ危機に瀕するを見るなり、是れ彼等を教ゆるの良好の書なきが故

也。著者は聖書を最良缺く可からざるものとすれど暫く之を措く「いづこもおなじ秋の夕暮」とは東西を通じて詠じ得る句也。茲に此著あり、見るべく學ぶべきなり。

若し夫れ譯述の著者の原意を満足になし得ざるものあらば之れ譯者の淺學無識且つ無經驗のいたす所にして甚だ慚愧に堪へざる也。而も敢て此事を企つは聊か此有益なる書を世に紹介せんとの意に過ぎざる也。而して此書の讀者にして眞に自ら願て基督の救に全く浴し得たりとの決心を得且つ基督者たるべき者は斯くあり得べきものなりとの確信を得たる士若し一人たりともあらんか是れ著者の本懐譯者の欣也。讀者幸に之を諒せよ。

惟一事讀者に希望する所は歐米其儘の風習を我國に用

ある事なく適宜臨機の途に出でん事なりとす
此書を公に爲するに當りて謹で記すと云爾

明治四拾年十一月中浣

譯者 識

目次

第一章	公正の首途……………	一
第二章	基督を公然告白すべき事……………	一四
第三章	救の確實……………	一八
第四章	聖靈を受くる事……………	二八
第五章	耶蘇を仰望する事……………	三六
第六章	教會員たるべき事……………	四五
第七章	聖書研究……………	五三
第八章	聖書に存する困難……………	八一
第九章	祈禱……………	九七
第十章	基督の爲め働く事……………	一〇九

第十一章	外國傳道	………	一三二
第十二章	交友	………	一三五
第十三章	遊樂	………	一四二
第十四章	迫害	………	一五〇
第十五章	啓導	………	一五八
	(終)	………	

基督者之成功

米國⁴イ¹ア¹聖書學館
名譽總長神學博士

アル、エ、トローレー著

日本 新井正平譯

第一章 公正の首途

基督者として社會に立つに當り必要缺く可からざる一事は蓋し公

正を基礎として其生涯を開始するにありとす。我等若し公正に由りて始めなば、また之れによりて進み得べし。我等もし過誤に始めなば又恐くは終生之れを行ふに至るべし。若し讀者の内誤を以て始めたる者あらば更に改めて再び公正に始むるは極めて容易なる事なれ

公正の首途

(一)

ば之を創むべし。基督者の生涯に於て、公正なる首途とは如何なる意義の者なるかは、約翰傳第一章十二節に左の如く記せらる、「されど、彼を接け、その名を信する者には、權を賜ひて之を神の子と爲せり」と。基督者たる生涯を始むべき正しき方法は、耶蘇基督を接くるにあり。何人を論せず、彼を接くる者には、彼は直ちに神の子たるの權を賜ふなり。若し讀者にして、此地上にある極惡の人たりとするも、もし耶蘇基督を接けなば、其時則ち神の子たる事を得るなり。神は既に引例せし聖句に於て極めて絶謝的に告げ給ふなり。何人たりとも、此以外の方法に由りては決して神の子たる事能はざるなり。何人を問はず、彼が何程用意周到の中に養育せられたりとも、また何程此世の不義、不徳、又罪惡より離れ居りたりとするも、彼若し耶蘇基督を接くるに到らざれば、神の子たる事能はざるなり。我等は、基督耶蘇に在る信仰によりて神の

子(改譯加三)たるものにして、之を除きて又他に神の子たる事を得ざるなり。

耶蘇基督を接くるとは是れ何の謂ひぞ。

之れ基督を自己の所有となすとの謂也、即ち神が各々に對し各自の有として彼を賜ひたるなり。耶蘇基督は神の賜なり、それ神は其生みたまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり、此は凡て彼を信するものに亡ぶること無くして永生を受けしめんが爲なり(約三ノ一六)。或人は神の與へ給ふ此不思議の賜を受くる也。何人を論せず、此賜を受くるとき、則ち神の子と爲るなり。他の多數者は神の與へ給ふ此賜を拒む者は亡ぶるなり。彼は既に審判を受けたるなり。「彼を信する者は審判れず、信せざる者は既に審判れたり、そは神の生みたまへる獨子を信せざるに因る」(約三ノ一八)

神は其子を我等に何となして與ふる乎

第一、神は耶蘇を我等の罪の代償者として我等に與へ給ふ。

我等は成な罪を犯せり、凡ての人(兒男女)皆罪を犯さるなし(羅三ノ二)。

「もし罪なしと言はば、是自ら欺くのみならず、又神を誑者と爲すなり」(約壹

一〇ノ八)今や、我等は身自ら其罪を負はざる可からず、然らざれば、他に人

ありて吾人の代りに之を負はざる可からず。吾人若し自ら己の罪を

負はんとせば、これ吾人は神の目前より永遠消滅するなりとの謂なり、

蓋神は聖き者なればなり。「神は光なり、彼に少しの暗き處あるなし」(約

一ノ)。然れども神は我等に代りて、われらの罪を負はんが爲に他のも

のを備へ給へり、是故に我等は自ら罪を負ふの要あるなし。之の罪の

代償者は神の獨子耶蘇基督なり、神は罪を識らざる者を我等に代りて

罪人となせり、之れ我等をして彼に在りて神の義たるを得しめんが爲

なり(哥後五ノ二)。耶蘇基督カルバリーに於て十字架上に死し給ひしとき、

彼は我等の爲に誑はるゝ者となりて律法の誑より、我等を贖ひ給へり

(加三ノ)。然らば基督を接くるとは神の子に就きて、神の此證を信じ、又

耶蘇基督が我等の罪を十字架上にて自己の身に引受け負ひたるを信

するにあり、(彼前二ノ四)、而して又耶蘇基督我等に代り罪を負ひたるに因

り神は萬て、我等の罪を赦し給へりとの事を信任するにあり。「われら

はみな羊のごとく迷ひて、おの々己が道にむかいゆけり、然るに主は

われらの凡てのもの、不義を彼の上に置き給へり」(賽五三)。過去現在

又は將來に於ける我等の善行と雖も、われらの罪の赦を受くるに關し

ては何等の價值あるものにあらず。われらが爲す善行に因らざるも、

我等の罪は赦さるゝなり。之れ則ち、我等に代りてカルバリーに於て

十字架に懸りたる基督の代償に因り、其罪赦さるゝなり。われら、若此

の贖罪に安んぜば、善行を爲さん。しかも、之れ實に我等の赦されたる結果にして又基督をわれらの代償者と信するに因る結果たるなり。我等の善行はわれらの救の根柢たらずして、唯我等の救の結果また其救の證據たるのみなり。我等は決して、われらの善行を救の根本義として混交せざらん爲め充分注意せざる可らず。我等の罪は、基督の死と我等の善行とに因りて赦されたるに非ずして、われらの赦されたるは、全く基督の死に因りてのみ、之を明亮に知らば、真正の基督者たる生活の正しき首途に臨みたりと謂ふべし。

第二、神は耶蘇を罪の力より我等を救ふ守護者として我等に供へ給ふ

耶蘇は死せり、されど又甦りたり。彼は今尙ほ生ける救主たるなり。彼は天のうち、地の上にある凡ての權を有す(太二八)。彼は極めて弱き

罪人を其墮落より止むるの權力を有す(猶二)。彼は自己に頼りて天父に來るものを極限なく救ふのみならず、全く救ひ得るなり。「是故に彼は己に頼りて神に就る者の爲めに懇求さん」とて恒に生くれば、彼等を全く救ひ得るなり(來七ノ二)。「是故に子もし汝等に自由を賜へば、汝等誠に自由を得べし(三約八ノ一)」。耶蘇を接くるとは之を信するにあり、即ち神彼に就きて其語の中に我等に告げ給ふものを信じ、彼の死より甦りたるを信するにあり、彼の今尙生けるを信するにあり、彼の我等を守りて墮落よりわれらを救ふの權を有する事を信するにあり、また日々罪の力より我等を守るの力ある事を信じ、且つ之を成し給ふ神を惟々信任するにあり。

是れ則ち日々罪に打勝つ秘訣なり。我等若自己の力を以て罪と争はんとせば、我等は只過つのみ。我等もし斷へず自己を守り、甦り給ひ

たる基督を正しく仰ぎ望まば、彼は我等を護り給ふなり。十字架に死したる基督に頼りて、我等は罪の過誤より救はれ、我等の罪皆消滅し、而して我等は凡て審判を受くる事なく自由の者となるなり、然れども記せよ、我等が日々罪の力に打勝つは惟、甦りたる基督に因る事を。或人基督を罪の代償者として受けて救を得、しかも之を超ゆる事能はず、故に彼等の生涯たるや、日々過誤の中にあり、他の人また基督を甦りたる救主として接ぐ、斯て罪に打勝つの経験に入るなり。義しき首途とは、我等當に基督を其罪の代償者として赦を得るのみならず、又我等は彼を甦りたる救主とし、罪の力より我等を救ふ救護者とし、われらの保護者として日々罪に打勝つ事を見るなり。

第三、神は耶蘇を當に我等の罪の代償者及罪の力より救ふ救護者としてのみならず、又實に耶蘇を我等の主、又王として供へた

り。

使徒行傳第二章三十六節に於て左の如く記しあるを見る、則ち曰く「凡てイスラエルの全家よ、汝等が十字架に釘けし此の耶蘇を立てて神これを主となし、又基督となし給ひしことを確かに知れよ」と。主とは神たる主、基督とは聖められたる王との義なり。耶蘇を受くるとは彼を神たる主とし、又我等の知能により全き信任を以て尊ぶ者とし、彼の語は絶対に信あるものとし、たとへ彼の教ゆる真理を疑ひ、或は拒絶するが如き賢者あるとも、之に關せずして我等の信する者とし、又我等の生命を絶對的に司配なし給ふ事を悦びて従ふところの王として接ぐるにあり、果して然らば爾後必ず疑惑の起る事あるなし。我が爲さんと欲する事、或は他人が我に向つて行へと告ぐる事、あるは他人が爲すところの事にあらずして、疑惑の歸する處は蓋し我が王なる耶蘇は我

に何を爲さしめんと望み給ふ乎との事なるべし。正しき首途とは主又王なる耶蘇に對して無條件の服従を含むものなりとす。

耶蘇を救主となすが如くに主又王となすを現實せんとして錯誤するは一に基督者たる生涯の初期に於て幾多の謬りたる徑路を採りたるに基因するなり。我等は始めに耶蘇を我等の救主となし、罪の代償者となし、又罪の力より救ふ救護者とせり。雖然、我等は單に彼を救主となし埋没し終らずして、彼を主又王と爲さざる可からず。凡そ耶蘇に對する思想と行爲とに於て無條件の服従を其の基督者たる生涯に於て始むるの緊要なる事は他に其比を見る能はざるなり。「主の爲め諸事を」と汝の衷心より吐露せよ、幾度となく之れを語るべし。幾多の人の成功せざる所以は彼等が此全き服従を恐るゝが故也。彼等は其半を以て或は其の一部を以て、又は其所有の一部を以て耶蘇に從は

ん事を願ふなり。何物たりとも耶蘇より之を藏秘し置かんとするは、蓋し失錯蹉跌、且つ卑賤極まる生涯を表示するものなり。

反之、完全き服従の生涯は萬事萬端、眞に愜悦の生涯と言はざる可らず。諸君もし曾て此事を爲さざりせば、乞ふ今日神に到り跪きて「耶蘇の爲め諸事を」と言ひ又之を意ふべし。極めて熱心に之を言へ、汝の心底より之を語るべし。斯くて汝が、之は何を示するや又己は何を行ひ居るか、を現實するまで其所に止りて動く勿れ。蓋し之を誠實に爲さば、驚くべき進歩の楷梯となれば也。諸君もし既に之を行ひしなれば、再び行へ、幾度となく行ふべし。之は常に新たなる意味を有ち、又新たななる福祉を來たらず也。此の絶對の服従に於て人は眞理てふ戸を開くの鍵を發見すべし。萬てを服従さする人にとりては疑念忽ち消失せん(約七)。此の絶對の服従に於て人は祈禱に存する勢力の秘密を

發見し得るなり(盛約三)。此の絶對の服従によりて聖靈を受くるに要する最高の條件を發見すべし(徒五)。

基督を諸君の主又王として受くるとは、諸君の既に知らるゝごとく、生涯の各細微なる事物に於ても彼の意志に順従なる事を含むものなりとす。世上幾多の人ありて我等に告ぐるに彼等は基督を己の主又王となして仕へ居る事を以てし、同時に日々事業に於て、家庭生活に於て、社會生活に於て將又自己の行爲に於ても基督に對して不従順なる者あり。斯の如き人は自己を欺き居るなり。諸君もし日々各々行ふ業に於て基督に従はん爲めに争はざれば諸君は未だ耶穌を諸君の主又王として受けたるに非ざるなり、彼れ自ら曰ひ給ひたる事あり、即ち「汝等わが言ふことを行はずして何ぞ我を主よ主よと稱ふるや(路六)と。

總て之を約言せば基督者たる生涯を開始する正當なる方法は耶穌基督を諸君の罪の代償者として受け又諸君に代りて死したる耶穌基督に由りて諸君の罪を赦し給ふ神を信仰するにあり。更に諸君の爲めに中保として恒に生くる、甦りたる救主とし又諸君を保護するの全權を有し、日々諸君を守り給ふ基督を受け信するにあり。而て諸君の思想及生命の絶對統御に諸君が服従する主又王として基督を接くるに在り。之れ則ち正當なる開始にして基督者の生涯にありて唯一正しき首途となす。諸君もし此の始を爲さんには、爾後來るところの者は比較的容易なりとす。諸君もし此の始を爲さざりしならば、乞ふ今より之を行はん事を。

第二章 基督を公けに告白すべき事

諸君は今や基督と諸君との間に或る私密なる處置により基督に對し適當の態度を以て基督者の生活を正しく開始せり而して次に起るべき事は今諸君と耶穌基督との間に存立せる關係を公けに告白するにあり。耶穌は馬太傳第十章三十二節に於て然れば凡そ人の前に我を識ると言はん者を我も亦天に在す我が父の前に之を識ると言はん」と曰ひ給ひたり如斯耶穌は公けに信仰を告白すべき事を要求せり。そは諸君の利益の爲に之を要求し給ふなり。是れ則ち恩惠の道なり。幾多の人自己は耶穌の弟子なりと稱するも之を世に知らしむるを欲まざるなり。何人を論せず此の希望この企を用ひたる者に曾て成功なしたる者あるなし。隱密に弟子となる事は弟子たる事を少も現は

すものにあらず。人もし眞實に基督を接けたらんには彼は私かに之を隠藏す能はざるべし。「夫れ心に充つるより口に現はるゝ者なればなり」(太一三四)。基督を公然告白する事に就きては、ポロが救の條件として其の説明の第一着となせし程に緊要なるものとせしなり。彼曰く「汝もし口に主耶穌を認はし又汝の心にて神の彼を死より甦らしむを信せば救はるべし、それ人は心に信じて義とせられ口に認はして救はるゝなり」(九一〇〇)。信仰告白の生涯は取も直さず全き救の生涯なり。實に信仰告白の生涯は唯一眞正の救の生涯なり。我等地上に在りて人々の目前に基督を接けなば彼も又天に在す父の前に我等を接け給ふべし、如斯天父は我等に救の印綬として聖靈を賜へ給ふべし。我等洗禮を受け教を信じたるとき或は教會に入會なしたるときあるは信仰復興會に列席なしたるときのみ我等基督を告白するとせば、

恐らく之を以て満足なりとは言ひ難たし。我等は常にたへず基督を言ひ認めはさる可からず、我等は我等の主又王を耻辱と思ふ可からず。我等は須らく人々に向つて、われらの既に基督に屬ける事を知らしむべきなり。家庭に在りても、教會に在りても、仕事に従事し居るも、遊戯の時も、他人に對して、我等は何處に立脚地を有し居るかを知らしむる事を要するなり。勿論我等は自己の基督教又は自らの敬虔を誇示するの要あらざるべし、然れども、我等は何人に對してもわれらが基督に屬し居るや否やを疑はしむる勿れ。我等はわれらの主又王なる基督に屬して悦び居る事を示さる可からず。

基督を公けに告白せざる事は屢々墮落、背教する多くの原因の一たるなり。基督者は己れが基督者として知られず又自ら事實を隠蔽するが如き新たなる關係に入り、而して誘惑に屈服し、直ちに自己は己れの漂流なし居るを發見するに至るなり。諸君耶蘇基督を思はば思ふ

ほど、基督は諸君を思ひ給ふべし。若此の事實にして諸君が萬事に於て基督を主として認識する事を明かに知りたらんには、諸君は自己を幾多の誘惑より救ふべし。

第三章 救の確實

人もし基督者として奉仕せるとき、満ち溢るゝ喜悅と力とを有せるならんには自ら其罪の赦されたる事、己れの神の子たる事及自己は永遠の生命を有し居る事を知らざる可からず。自己の永生を有する事を知るは、是れ信徒の特權なり。約翰はヨハ子第一書第五章十三節(改譯)に「われ神の子の名を信する汝等に此等の事を書き贈るは汝等は窮なき生命を有する事を汝等の知らんが爲なり」と曰へり。ヨハ子が特に之の第一書を記したりしは、何人を問はず神の名を信する者は窮なき生命を有すてふ事を知らしめんが爲にてありき。

人あり我等に告げて曰く、何人と雖も彼死して後ち神の審判場に現はれざれば、自己に永生の存するや否やを知る能はざるべしと、雖然神

自ら我等に告げて、我等は之を知る事を得んと示し給ふなり。自己の永生を有すてふ事は信する者に有り得べきことなるを拒むとは、是れ則ちヨハ子第一書が無益に且つ目的なしに記るされたることを言認はし且又其真正の記述者たる聖靈を侮辱する事を示すものなり。ポロは使徒行傳第十三章三十九節(改譯)に於て更めて我等に告げて曰く「彼則ち基督にありて信するものは皆總てのものより義とせらるゝなり」と。斯の如く耶蘇に頼りて信するものは皆己れの凡てのものより義とせられたるを知り得るなり。神の聖語、是也と告ぐる故に彼は知り得るならん。又ヨハ子は約翰傳第一章十二節(改譯)に於て「されど彼(即ち基督)を受け其名を信するものには彼れ、神の子たるの權を賜へり」と曰へり。耶蘇を接くるものは皆神の子たりてふ事は、確固誤謬なき處の告示なり。是故に耶蘇にある信徒はみな己れの神の子たるを知り得

る也。彼は凡て最も確固たる根柢に於て之を知り得—約言せば—神の聖語に由りて、かれは神の子なることを確定せられたれば也

然れど如何にせば各自ら永生を有せるやを知り得る乎

之は知識の最も確實なる根柢則ち聖書中に記載しある神自らの證左に由りて知る事を得る也。經典の證左は則ち神の證言たるなり。經典の告ぐる處は絶對的確實なり。經典の告ぐるところは取も直さず神の告ぐるところなりとす。約翰傳第三章三十六節に於て經典の記する處次の如し「子を信する者は窮なき生命を有す」と。我等何人もわれらは子を信するや否やを知るに難からじ、我等彼を接けん爲め、我等を啓導し給ふ基督にありて眞正の信仰を有する乎を。我等もし基督にある此の信仰を有せんには我等は窮なき生命を有すてふ神の承認なしたる證左を有す。我等の罪は赦されたり、我等は神の子等なり

てふ神自ら承認なしたる證左を有す。我等は赦されたりと感じ又感ぜざるならんも、蓋は我等の關するところにあらざるなり。こは我等の感ずるところの問題にあらずして、たゞ神の告ぐるところに在るのみ。神の語は恆に信すべきものなり。我等の感情は折節幾度か疑はざるを得ざることあり。幾多の人は自己の罪赦されたり、己れは永生を有す、自己は赦されたりと感せず、或は永生を有することを感せず、或は救はれたりと感せざるの故を以て、自己は救はれたりてふ事を疑ふ者あり。諸君は感せずとの理由を以てするも疑はざる可らずとの理由と成す能はず。

足下今獄窓に禁錮せらるべき宣告を受けたり、然るに足下の友人來たりて足下の爲めに赦免を得たりと假定せば奈何。彼は足下を赦免すとの令狀を持ち足下に與ふべし。足下は之を讀み、令狀の示す所に

由り、其の赦されたる事實を知る事を得ん、然れども此の報たるや、あまり上出来に且つ餘り急速なるを以て足下は怪しむなるべし。足下は自己の赦されたるを事實と思はざるべし。然るに或人、足下に來たりて「足下は赦されたる乎」と問はん、足下は之に對して何と答へんと欲する乎。「然り余は赦されたり」と言はん。彼は更に「足下は赦されたりと思ふや」と問はん。之に對して足下は「否」とよ、余は赦されたりと思はず實に急速なり、あまり不思議なる故、余は之を事實と思はず」と答ふるならん。然るに其人、足下に告げて「然し何故に足下は、もし足下が之を感ぜざるならば赦されたりとの事を知り得るや」と曰はん、足下は直ちに「かの令狀を示して、之れが物言ふ」と告ぐるならん。後ち足下が屢々夫の赦免狀を繰返し讀み下せば、終に夫を信するの時來るべし。足下は嘗に令狀の告ぐる故を以て、自己の赦免せられたるを知るのみならず、尙又足下は之を感ずるに至るべし。却説、聖書は何人を論せず、耶蘇を信する者は義とせられ、子を信するものは窮なき生命を有し、又耶蘇を接くるものは皆神の子たるなりて、ふ事を布告せる信據すべき神の教書也。人もし諸君に對ひて、汝の罪凡て赦されたるかと問ふとき「然り、余は赦されたるを知る、神斯く告ぐれば也」と答ふ可し。人もし汝に問ふて、汝は神の子たるを知るや、と言はば、然り、余は神の子たり、神の斯く告ぐるに由りて知る」と答へよ。又窮なき生命を有するやと問はば「然り、神の斯く告ぐるに由りて、余は窮なき生命を有するを知る、神は子を信するものは永生を有す」と言ひ給へり。余は神の子を信す、故に余は永生を有する事を知る、神斯く言ひ給へば也」と答ふべし。諸君は之を感ぜざる事もやあらん、然も諸君神の説明と神の告ぐる事を信じつゝ、之を沈思黙想せば、終に諸君は之を感ずるの時期の到來を見る

ら、尙又足下は之を感ずるに至るべし。却説、聖書は何人を論せず、耶蘇を信する者は義とせられ、子を信するものは窮なき生命を有し、又耶蘇を接くるものは皆神の子たるなりて、ふ事を布告せる信據すべき神の教書也。人もし諸君に對ひて、汝の罪凡て赦されたるかと問ふとき「然り、余は赦されたるを知る、神斯く告ぐれば也」と答ふ可し。人もし汝に問ふて、汝は神の子たるを知るや、と言はば、然り、余は神の子たり、神の斯く告ぐるに由りて知る」と答へよ。又窮なき生命を有するやと問はば「然り、神の斯く告ぐるに由りて、余は窮なき生命を有するを知る、神は子を信するものは永生を有す」と言ひ給へり。余は神の子を信す、故に余は永生を有する事を知る、神斯く言ひ給へば也」と答ふべし。諸君は之を感ぜざる事もやあらん、然も諸君神の説明と神の告ぐる事を信じつゝ、之を沈思黙想せば、終に諸君は之を感ずるの時期の到來を見る

べし

人もし自己の永生を有する事を疑ひて、尙神の子を信ずるとせば、之れ神を誑者となすなり。「神の子を信する者は其裏に此證あり、神を信せざる者は神を誑者となす。蓋かれ神の其子の爲めになせる證を信せざれば也。神は窮なき生命を我等に賜へり、此生命は乃ち其子に在り、これその證なり。神の子を有つものは生命を有ち、子を有たざる者は生命を有たず」(改譯 聖約五ノ一〇―一五)。「何人を問はず、神のわれらに窮なき生命を賜へたること、此の生命は神の子に存すること及子を有つものは乃ち生命を有つなりて、ふ神の證を信せざる者は神を誑者となす也。時に或は言ふものあり、曰く「余は己れの救はれたるを知ると言ふが如き人において、之は彼にとりて單に豫察、假定たるのみ」と。然れども、神を信するはこれ假定なる乎。これ神を信せざるてふ事の寧ろ假

定ならざるなき乎、神を誑者となすてふことの寧ろ豫察ならずや。諸君神の子を信じながら、猶自己の永生を有する事を疑ふとは、之れ正しく神を誑者となすなり。耶蘇罪人なる婦人に向ひて、汝の罪赦された(路八七ノ)。「と言ひ給ひたるとき、かれ出で行きて、われ、我が罪の皆な赦されたるを知る」と告げたる、かの婦人にとりて之をしも假定となし得る乎。かれの罪皆赦されたりてふ事を暫時なりとも疑ふとの彼女にとりて却つて假定なりと思はざる乎。耶蘇は罪みな赦されたりと告げたりき。之を疑ふとはかれにとりては耶蘇を誑者思はしむるなり。然らば神其經典に於て、信する者各々に向ひて「汝諸ての」とより義とせらる(徒三九)、「なんぢ永生を有す」(約三ノ三六、壹)と告げ給ふとき、「我が罪皆赦されたり、われは永生を有す」と言ふとも、今日基督者にとりて必ずしも假定の事也とする乎

先づ始めに諸君は誠實に神の子の名を信すること及び眞實に耶蘇を接けたることに就て確實なるべし。諸君もし之に就きて確實ならんには寸時たりとも汝の罪皆赦されたる事を決して疑ふなかれ、造次にも顛沛にも汝の神の子たる事及汝の永生を有することを疑ふ勿れ。サタンもし來りて「汝の罪皆赦されず」と囁かば神の語を以てサタンを刺せ、而して「神、我が罪皆赦されたり」と告げ給へり、而してわれ其の是なるを知る」と言ふべし。若し又サタン囁きて「さて、恐くは汝は彼を信せざる可し」と言はばよし、若し我未だ嘗つて信せざりせば我は今より信すべしと、告げよ、然らば則ち汝の罪皆赦されたるを知り、なんぢは神の子たるを識り、又汝は永生を有するを知りて欣然として出で行くべし。宜なる哉、眞正に神の子の名を信せず、又眞に耶蘇を接けずして永生を有するを知ると稱するもの、其數幾何なるを知らず、是れ眞誠の確定

ならず。之れ謊はらざる神の聖語に確固たる基礎を有せざるの致すところ也。我等もし救の確實を得んと願はば、宜しく第一に救はれざる可からず。幾多の者の何故に自己の救はれたる確實を有せざるの理由は彼等の未だ救はれざるに因るなり。彼等は確定を有する筈なし。彼等の第一に要するものは救なり。然れども諸君もし、第一章に記したる方法に由りて耶蘇を接けんには、諸君は救はるべし也。諸君は神の子なり、諸君の罪赦されたり。之を信せよ、之を知るべし、之を以て悦ぶべし。之を定めて恆に變ずる事勿れ。決して疑ふ勿れ。汝錯誤することあるも、なんぢ躓くことあるも、なんぢ墮落することあるとも、假令尙之を行ふとも、若し汝耶蘇を眞實に接けたりせば、汝の罪赦されたるを知りて、なんぢの墮落より起ちて、汝と神との間に何物の介在するなき所以に由りて、欣然として確實に進行すべし。

第四章 聖靈を受くる事

使徒ポーロのエペソに到りしとき基督を信せる十二人の一小團體に遭遇せり。然るに何事のありけんポーロにとりて此等十二人の信徒につき甚だ好ましからざるものありたり。我等は其何たるを知らず、されど其事たるや諸ての基督者が眞に恩恵に充ちたる生涯に入りたるらんには何人も其人々に期待するところなる夫の溢るゝばかりの喜悅を之等の人々には見出す事能はざりし事ならんか。或はポーロは唯僅かに十二人の信徒のみなるを以て、もし之等十二人が然るべき者なりせば、此時エペソには事實此以上のものゝ存するべきを想ひて心痛せしならんか。ポーロをして不愉快ならしめしものゝ何たるに拘はらず、彼は直ちに人々に問を起せし事によりて其困難の根本に直入

せり、曰く「汝等信せしとき聖靈を受けしや(改譯徒二)と。之に由て直ちに彼等の聖靈を受けざりし事を知るに至れり、又事實彼は聖靈を賜へられたるさへも知らざる事を示すに至りしなり。ポーロは聖靈既に賜へられたるを人々に告げ而して又彼等に對ひ今後聖靈を受けん爲に何を爲さざる可からざる乎を示せり。然るに夫の集會の終らざるに聖靈人々の上に降り其日よりしてエペソにては萬事面目一新の有様と變りたるなり。直ちに大レヴァイバル起り全市爲に大ひに動搖ふに至れり。「神の道廣まりて勝を得ること此の如し(徒二一九)。エペソにある之等弱き弟子に對するポーロの問は何處を問はず皆弱き信徒に對して起さざる可からず、汝等聖靈を受けしや」と。我等の心裡にある喜悅、罪に對する勝利、祈禱に於ける力、及効果ある奉仕の一大秘訣は聖靈を受くるにあり。

誠實に耶蘇を受けたる人は或意味に於て自己に内住する聖靈を有たざる可らず、雖然多數の信徒にありては、譬へ聖靈の彼等に内住するとも、聖靈は人々の内なる或隠れたる聖所即ち良心の後裏に住み給ふなり。ポーロが問を起せし意味によれば聖靈を受くるとは全く異なるもの即ち更に之よりも勝りたるものたるなり。人が經驗によりて自ら聖靈を受けたる如き意義に於て聖靈を受くるにあり、我等が嘗つて世にありて有せし、あらゆる喜悅にも異なりて我等の心に喜悅を以て満す事を意識なす意義に於て聖靈を受くるにあり。聖靈我等の生命を司配し、我等の内心に靈の結ぶところの果なる仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、樽節の常に増殖する如き意義に於て聖靈を受くるにあり。我等は已に由らず、祈禱の中に聖靈我等の心を引付くるを意識するが如き意義に於て聖靈を受くるにあり。又我等は基督の爲

め證を爲すとき、われらが各他人に對ひて語るとき、及基督を接くるよ
う人々を導かんと試むるとき、或はわれらが日曜學校の一組を教授す
るとき、あるは公衆に語るときあるは主の爲め其他の仕事を爲すとき
聖靈の祐助を意識するが如き意義に於て聖靈を受くるにあり。諸君、
聖靈を受けたる乎若し然らずば如何にせば諸君は之を受け得る乎、余
をして一言諸君に告げしめよ

一、聖靈を受けんとせば先づ神を凡て我等の罪を赦し又我等を免
し給ふ唯一萬全の基礎として、我等の爲め十字架上に死し給ひたる基
督に居りて安んぜざる可らず。

二、聖靈を受けん爲めに、我等は凡て己れの知れる罪を除去せざる
可からず。我等は天父にいたりて自己の探られん事を求めざる可か
らず。我等の生活中に在るもの、我等の内外の生活、則ち我等神の目前

に悪しと見ゆるものを發見せざる可からず、而して神もし我が内に自ら喜び給はざるものを發見なさしめ給へば、其事の如何程我等の親しむものなりとも我等は之を除去せざる可からず。聖靈を受くる爲には諸ての罪を全く放棄せざる可からず。

三、第三に於て、聖靈を受けん爲め、世人に基督を公然告白せざる可からず。私かに基督の弟子たらんと望む者に聖靈は賜へられず、然れど基督に従ひて世に彼に對する信仰を公けに告白する人に對しては賜はる也。

四、第四に於て、聖靈を受けん爲には我等の生命を完く神に服従なさしめざる可からず。諸君は神に到りて「天父よ、余れ此所にあり、汝は價を以て我を求め給へり。われは今汝の所有なり。余は己れの意を爲さんとする凡ての要求を放棄す、我が生命を支配する諸ての要求を、

己れが爲め途を求めんとする凡ての望を棄つ。余は汝に隱藏すことなく、我を献ぐ―我がある萬てと、我が有つ諸てを。汝の欲する所に我を遣し給へ、汝の聖意のまゝに我を用ひ給へ、汝の聖意の欲むものを我と俱に爲し給へ。余は汝のものなれば也」と告ぐべし。我等若し何物にても神より隱藏することあらば譬へ誠に些少なるものなりとも、之に由りて凡てを損ふべし。然れども、我等もし萬てを神に従はしむれば、その時神は我等に自ら有てる萬てを賜ふべし。或人神に對して此服従を怖るゝあり、然れども神に服従する事とは單に無限の愛に絶對的服従すてふ謂なり。天父に服従せよ、天父の愛は地上の父の慈よりも更に賢く、地上の母の愛よりも更に優しくあるなり。

五、聖靈を受けんとせば、聖靈を受けざれば止まじと確と心に定めて願はざる可からず。我等の主耶蘇は路加傳第十一章第十三節に於

て然れば汝等惡しき者ながら善き賜を其兒童に與ふるを知る、まして天に在す汝等の父は求むる者に聖靈を與へざらん乎」と告げ給ふ。汝に聖靈をも賜ふ神に全く希求せよ而して神之を成し給ふと期待すべし、蓋し神は成し給ふと告げ給へば也。

六、最後に、聖靈を受けん爲には單純に神の道ことばを用ゆるの信仰なかる可からず。神の道の約束が何程積極的なりとも、我等は信するるとき惟個人的に之を悦ぶべし。我等の主なる耶蘇は、凡そ祈禱るとき、その願求ふ所のものは必ず得べしと信せば必ず得べし(馬可一ノ三四改譯)と告げ給ふ。汝聖靈を祈り求むるとき、神の聖意に従ひて或もの爲に祈りたり、是故に汝は汝の祈の聽かれたるを、又汝は神に何物を祈りたるかを知り得るならん(壹約五ノ一四、一五)。諸君は別に差別を感せずらんも、自己の感情を見ることなくして只神の約束を看るべし。祈禱の聽かれたる

を信せよ、神は汝に聖靈を賜ひたるを信じ而して汝は其後に及びて實際の經驗に對照して汝は單純の信仰に由りて神の道の單なる約束のみにて受けたる事を知るに到るべし。

屢々惟一人聖靈に到り跪きて彼を仰ぎ見るべし、而して全く制したる新しき生涯を彼の聖手に委ぬべし。諸君の萬ての思想、想像、情念、慾望、野心、撰擇、目的、言語、行爲等、萬事を制せん爲めに彼に求め而して只彼の成し給ふまゝを期待すべし。基督者の生涯に於て十全の勝利を得る秘訣は、諸君に内住し給ふ聖靈を受け入るゝにあり、諸君の缺點なき行爲に於て極めて平安なる通行權を有するにあり。

第五章 耶蘇を仰望する事

我等若し耐忍びて我等の前に置かれたる馳場を趨らんとせば我等は恆に耶蘇を仰ぎ望まざる可からず(一來一三ノ)。極めて單純に似たれども更に喜悅と勝利とにありて最も力ある一事は、必ず耶蘇の姿を見失はざる事にあり。

一、先づ我等は神の聖前に於て我等の接くべき基礎として耶蘇を仰ぎ望む事を持續せざるべからず。

サタンは暫々反復丁寧^ニに我等の罪と過失とを捉へて我等を失望落膽なましめんと企圖するなるべし。斯くて彼は我等は神の子ならず又救はれずとの事を以て我等を説服なさんと試るなり。彼若し我等をして常に罪を顧み、又之を思はしめん爲に我等を取入れ成功せば彼は

直ちに我等を失望なましむべし。之の失望とは是れ失錯の謂なり。

然れど我等若し我等が常に犯せし罪を我等に代りて全く贖ひ給ひたる神の望み給ふ耶蘇基督の死を顧まば我等は自己の罪の何程大なりとも決して失望する事なかるべし。我等は自己の罪の大なるとき、極めて大なる時に自己の罪の悉皆贖はれたるを知るならん。サタンが斷へず我等の罪の一分を數へて示すとき、我等は耶蘇基督我等に代りて誼はるゝものとなりて罪の誼より我等を贖ひたるを知るべし(一加三)。我等は己れの中に不義の滿ち居るを見るべし、然れども基督にありて我等はわれらに代りて、基督罪とせられたるに由りて神の義と爲らるゝを得たるなり(一哥後五)。我等はサタンが嘲罵する罪の既に除かれ永遠に決定せられたるを知るべき也(一彼前二ノ二四) (一賽五三ノ六)。我等は常に

耶蘇は我等の負ふべき罪を

負ひて其身を十字架の上に

懸けてぞ價をばらいたまふ

我等は塵とけが水にそみて

洗ふすべなき身をも憫れみ

あらひ給へり雪よりも白く

と謳はざるべからず。諸君もし今自己が嘗て過去にてか現在にてか犯せし罪に由りて惱み困しみ居らんには、十字架上にある耶蘇を仰ぎ望みて、神の自己に告げて、汝を惱す此の罪は既に彼に負はれあるを信せよ(賽五三、六六)。罪の事皆定まりたるを神に感謝すべし、諸君に代りて罪を負ひ之に就きては少したりとも諸君を惱まさざる耶蘇に全く感謝すべし。神が己れの無限の愛を以て除き去りたる罪を再び思ひ返す

とは、是れ神に對して極めて卑劣なる忘恩の行爲なりとす。十字架上の基督を仰ぎ望み常に神の恩寵の光に沐浴して進むべし。この神の恩は高貴き價を以て諸君の爲に贖ひたるなり。感謝とは常に恩を信じ恩の光に歩まざるべからざる事を諸君に要求すてふ事也

二、第二に、我等は耶蘇を天のうち地の上の凡ての權を有し、且つ常時我等を守り得る甦りたる救主として仰ぎ望まざる可からず

諸君は今或る悪事を爲さんとして誘はれ居る乎。若し然りとせば耶蘇の死より甦りたるを憶ふべし、耶蘇は今榮光の中に神の右手にありて生き給へる事を憶ふべし。彼は天のうち地の上の凡ての權を有するが故に彼は今直ちに諸君に勝利を得させうる事を記憶すべし。神が自己の語の中に耶蘇は今全く汝を救ふの權を有すと諸君に告げ給ふを信すべし(二來七ノ)。彼は今諸君を圍繞せる此罪に打勝ち得る力を

諸君に與ふ權あるを信すべし。諸君に勝利を與ふる神に求め且つ之を行し給ふ神を期待せよ。此方法に由りて打勝たんために甦りたる基督を望まば、諸君は日々、時々、刻々、罪に打勝つことを得ん。「耶蘇基督の死より甦りたるを忘る可からず」(提後二八、改譯)

神は我等の一人々々を勝利ある生涯に召し給へり、而して此勝利の生涯を得るの秘訣は常に勝を得んが爲に、甦りたる基督を望むにあり。十字架に懸りたる基督を望むに由り我等は赦を得且つ平和を悦ぶに至るなり。甦りたる基督を仰ぎ望むにより、我等は罪の勢力に對して其場合於ける勝を得るに至るなり。諸君若し甦りたる基督を見失ひて誘惑に陥りたるなれば汝の罪の告白をなし而して神の斯く告げ給ふ言に由りて其罪の赦されたるを知るべし(壹約二九)。斯して再び今汝に勝利を賜ふ甦りたる耶蘇を看且つ彼を仰ぎ望むべし

三、第三に我等はわれらの日々の行爲に於て耶蘇に従はざる可からざる者なるが故に彼を仰ぎ望まざる可からず

我等の主なる耶蘇は今も主の弟子なる我等に對して主が其昔弟子等に告げ給ひし如く「我に従へ」と宣ふ、彼に居ると言ふ者は彼の歩みし如く行むべき也(壹約三)。基督者の生涯に於て極めて普通に過つ事は我等が極力賞讃するところの善良者に従はんと企望する事なりとす。男女の別なく何程其性善良なりとも安全に従ふ能はず、我等は何なる男女に従ふともわれらは迷ふ事を期せざる可からず。此地上に在りては惟一人の絶對的完全者を除きては他に決して完全なる人あらざる也—則ち人なる耶蘇基督也。我等若し此人を除き其他の人に從はんとせば其人の長所に從ふよりも更に多く其人の短所に模倣するや必せり。耶蘇を仰ぎ望むべし、耶蘇のみ汝の教導者として望むべし

諸君若し何時たりとも何を爲すべきかに付て困しみ悩むときあらんか、單に此問を起すべし、即ち耶蘇なれば何を爲し給ふ乎と。耶蘇なれば何を爲し給ふ乎を自己に示されんが爲に聖靈に由りて神に求むべし。耶蘇は何を爲し給ひし乎を知らんが爲め汝の聖書を研究し以て耶蘇に従ふべし。假令何人も耶蘇に従ふよう見へずとも、汝のみは確に従ふべし。他人を批評するに時と思とを空しく費す事勿れ、それは彼等は耶蘇に従はざる者なれば也。汝自ら彼に従へるや否を看るべし、汝が耶蘇に従はざる人々を批評するに貴重の時間を空費するときは、耶蘇は常に汝に告げて「汝に何の與あらんや、汝は我に従へ」(約二二)と曰ひ給ふなり。汝が處理すべき問題なる耶蘇に従ふてふ事とは、他人を連累するが如きものならず、問題は則ち是也、耶蘇に従ふてふ事は汝の爲には何を表示するものなる乎にあり。

是は眞に單純なる生涯にして、即ち單に耶蘇に従ふことなり。幾多の混雜せる問題の諸君に起ることあらん、然れど尤も困亂せる問題と雖も諸君若し萬事に於て耶蘇に従ふと全心全力を注ぎて決心せば、忽ち日を睹る如く明かに解決し得るものなり。サタンは諸君に向つて「斯々の善人は之を爲す」と耳語かんとして常に備へ居るなり、然れど凡て汝の答を要するものは、此人かの人の爲す、爲さずとは余に何等の關係なし。惟余の間ふところは耶蘇なれば何を爲し給ふ乎にあるなり」と。單に耶蘇に従ふの生涯に於ては實に奇しきなるほどの自由を有す、此途たるや直にして明白なり。雖然、他人の行爲を觀察して自己の行爲を形成せんとす如き人の途は歪と變轉及陷阱とを以て充滿し居るなり。耶蘇を仰ぎ望むべし。彼の導くがまゝに信じて従ふべし。こはいよ／＼光輝をまして晝の正午にいたる義人の途也(箴四ノ一八)。彼

は世の光也。彼に従ふ者は暗き中を行かずして恆に生命の光を有つ
なり(約二八)

第六章 教會員たる事

老ひたるも若きも諸て基督者は他の同信仰の者を友とる事無くんば基督者の生涯に於て眞の成功を見る事難し。教會は實に耶蘇基督に頼りて創建せられたる神聖に且つ永續すべき惟一の結社なり。他の結社たるや盛衰浮沈常無し、之等は其の時代に於て夫々自らの事業を起し又終るなり、然れども教會は終極なく永遠に繼續すべきもたる也。「陰府の門は之に勝つ可からず(太一八)」。教會は男女に因りて成る、實に不完全なる男女を以て組織せらるが故に不完全なる結社なる事は自然の理なるべし、然れども神聖なる起原を有し又神に愛せらるゝものは教會を除きて他に何もものもあるなし、而して之に屬する信徒各自は己れの之に屬する事を現はさざる可からず、且又之に自己の地位

を公けに據取し之に關はらば凡ての責任を負はざる可からず
 眞正の教會は耶蘇基督にありて生命ある信仰に由り結合せる眞正
 の信徒を以て成立せざる可からず、現今に於て其の外觀的機關に付き
 ては、既に無數の教派と各種の團體に分別せらるるとも、眞正の教會は一
 あるのみ。教會は一人の主耶蘇基督を有す。之は一定の信仰を有す、
 即ち基督を神たる主又惟一の王なる救主となす信仰也。一のバプテズ
 マを有す、即ち一の靈にありて一の體となるバプテズマなり。(弗四ノ四、
 哥前一二)
 三。然れども各々基督者は夫々教會にありて會友たる可きを要す。
 而して此會友としての外觀的表示は信徒相互に由りて組織せられた
 る或る教會に列なりて會員たる事を謂ふ也。我等若し既に組織せら
 れたる教會より超然として高く止まり總ての教會に屬する總ての信
 徒と共に濶く交際せん事を望まんとせば之れ我等は己を欺くもの也。

我等は或る一個の教會に親しく結合する事によりて得るところの有
 益なる勢力を失ふなり。余は或る一教會に會員とならず超然として
 高く止まる幾多有識の士を知れり、而して余は未だ嘗て斯の如き事を
 爲すの士にして、其人の靈的生命の之に由りて大に苦惱を覺ゆるある
 を知れり。ペンテコストの日に於て悔改めたる三千人は直ちにバプ
 テズマを受けて教會に加へられたり。(徒二ノ四、
 一四七)而して彼等は常に使徒
 等の教訓を受け交際をなしパンを擘くこと、祈禱とを務めたり。(徒二
 一)彼等の例證は我等の學び行ふべきものなり。諸君若し眞に耶蘇
 基督を受けたらんには耶蘇基督を接けたる他の同輩を出來得るだけ
 速かに探し出し彼等と共に親しく交際するを要す

多くの會衆中には教會の撰擇を爲さざるものもあるならん、そは教
 會は惟一なれば也。又他の會衆中の或人は余は何なる種類の信徒の

團體に結合すべきかとの間を起す者もあるならん。されど完全無缺の教會を求めんとて諸君の貴重なる時を浪費する事勿れ、蓋し完全の教會は一もあらざれば也。諸君若し自ら入會せんとする前に完全の教會を發見なさんとて猶豫することあらんには恐らくは諸君は何れにも入會すること能はざるべし。斯の如くして諸君は終に總ての教會の中にありて最も不完全なる只己れ一人のみ會員なる教會に屬するに到るなるべし。余は寧ろ全く何れの教會に屬せざるよりも常に余の知る最も不完全なる基督教會に屬せんとの願望の切なるを覺ゆるなり。ポロ^一在世の時代に存在せし各教會は極めて不完全なるものなりき。コリント人に贈れる書翰を通讀して如何にコリントに在りし教會が不完全なる者なりしかを知るべし、如何にも教會の内部に罪惡の充ち居りたりしを見るべし而かもポロ^一は未だコリントにあ

る信徒に對して此の不完全なる教會より脱すべしと忠言せんと思考したるを見ず。彼は人々に告げて異教より脱せよと言へり、不信仰なる者の會より脱すべしと言へるも(哥後六ノ一四一八)、コリントにある不完全なる教會を脱すべしとは一言も及ばざりき。彼はコリントにある教會に對して惡しき生涯を送れる人々に交はることなからん爲め彼等より脱るべしと告げたり(哥前五ノ二三)、然れどポロ^一はコリントにある教會に屬する各會員に對して是等惡しき人々の未だ教會より離脱せざるが故に此の教會より脱會すべしとは告げざりき

諸君は完全無缺の教會を發見し得ざるゆゑに、諸君の出來得る限り最良最善の教會を求む可し。信徒が聖書を信じ又聖書を布説する教會に會員となるべし。神よりの信據すべき啓示として又信仰と行爲との完全無缺の金課玉條として聖書に關る信仰を掘り倒すが如き傾

向を有する言語を公然用ひ或は隠然用ゆるが如き教會を避くべし。祈禱の精神に充滿し祈禱會を善く繼續するころの教會に入るべし。失はれたる者を救はんとて眞に活動せる教會幼稚の信徒が監督せられ誘導補育せらるゝところ、牧師と會員とが貧しき者見放されたる者を憐むところ及此の世に於て自己の天職は基督の失はれたる者を求めて救はん爲めてふ天職と等しと視做すところの教會に入るべし。教派の相異に關しては(他のものに於ては同じなりとも)教義政治及儀式等己れの有するものと相類似せる教派に入るべし。雖然諸君と同派なりとも死せる教會に入るよりは寧ろ教派の相異ありとも生命あり活氣ある他の教會に入るに如かざるなり。我等は教派の漸く減少し來たれる時代に在るにも拘はらず實際に其結果を見ず斯くして或者は度々己れの教派に屬して近づき易き教會にあるよりも他の教派に屬する教會にあ

るの更に氣樂なるを感するならん。教派を分離さするが如き事由は教派を結合なさしむる極めて大なる根本的眞理目的及信仰に比較せば實に些細なる事共なりとす

諸君若し叙上の如き例に一致合同する教會を發見し能はざれば之に最も近似の教會を求むべし。其教會に行き祈禱により或は働を以て基督の教會とは斯くあるべき筈のものなりてふ諸君の思念ふ如き例式に最も近似の教會になさんものと試るべし。雖然教會又は牧師を批評するに用ひんとて敢て諸君の勢力を浪費する事勿れ。教會に於て又牧師に就きて善きところのものを望みて之を強固に爲さんとて汝の全力を盡すべし、然れども喙を容る事なくして其惡しきものより超然として堅固く起つべし而して之を改め正さんと願ふべし。諸君若し一月一週一ヶ月或は一ケ年間に改良し能はざればとて決して

失望する事勿れ、耐へ忍びて愛と祈と努力とを行はゞ期に及びて得る處あるべし。身自ら止め去り又は嗔り怨み謗るが如き事は善き事にあらず、蓋し之等は單に諸君及び諸君が倚つて以て立つところの眞理を拒否する事を助長なさしむるのみなれば也。

第七章 聖書研究

基督者の心靈的生命の進歩發達を期する爲めには規律的及び組織的聖書研究を措きて他に其必要なる事由を見ざるなり。物質的生命にありて我等の健康を保持せんとするには、われらの食物及び其量の如何に因るが如く心靈的生命に於ても又此法を超へざるものとす。靈魂の主なる食物は唯一冊の書即ち聖書に存するのみ。勿論誠實なる福音宣傳者は神の道を以て我等を克く教養すと雖も、尙ほ之を以て充分とは謂ひ難し。彼は一週唯一、二回のみ我等を養ふに過ぎず、然るに我等は毎日養はれざるべからず。更に一步を進めて曰はんは、是は他人によりて養はるべきものにあらずして我等は自ら己れを養ふ事を學ばざるべからず。我等は之を學ぶべき筈なるが故に、我等若し自

らの爲めに聖書を研究なすとせんか、我等は大體に於ては人なる師より獨立なるべし。蓋し我等もし我等の牧者の代りに神の眞理に關して一切無識なる者を得るが如き不幸に遭遇するとも、我等は猶安全にして害はる事なければ也

我等今や一步進まんか直ちに虚偽の教理に接觸するの時期に生存するに際して、唯此過誤に陥ることなくして安全に過す基督者は日々己れのために聖書を研究する人あるのみなり。使徒ポロはエペンにある教會の長老輩に對して、間もなく群を惜まざる暴き狼、彼等の中に入り又彼等の中より人々を己れに従はせんとて悖理なる言を言出す者起らんとて彼等を戒めたり、然れどポロは此如き困難に際しても尙ほ處すべき安全の途を告示せり。即ち彼曰く「汝等の徳を建てかつ凡ての聖められし者の中に於て業を汝等に予ふる能力ある神及び

其恩恵の道^五を沈思默想にする由りて、教會内にある先達者の中にも過誤、失錯の多き中に介在して尙ほ彼等は安きを得るならん(徒二〇ノ二、九ノ三〇ノ二)。其後ちポロエペンにある教會の監督に書を寄せて曰く「悪人と人を欺く人は益々惡に進み、人を惑し亦人に惑さる(提後三ノ一、三改譯)、彼更に監督テモテに向ひて如何程己れ及び其同輩信徒が將に來らんとする多くの困難に際會するも尙ほ安全なるものを告げ示せり。其方法たるや、即ち救を得しめんため、に智慧を予ふる聖書を研究するにありと(提後三ノ一、四)。「聖書は神の默示にして教誨と督責また人をして道に歸せしめ又義を學ばしむるに益あり、これ神の人の完全を得て諸々の善事を行ふに缺なからん爲なり」と追加せり。要するに聖書の研究によりて人は健全なる教義を學び、己れの罪を知るに至り又之を除き得るに到る、正義の生涯に於て懲戒を見、又諸々の善き事の完全き備へを得るなり

我等の心霊的健康、成育、強壯、罪に對する勝利、健全なる教義、基督にある喜悅と平和、内外の罪より潔まる事、職務に適切なる事等は神の道を研究する事に由りて來るところの賜也。己れの聖書研究を怠るが如き者は基督者たる生涯に於て必ず成功し得ざるなり

是れ我等に對ひて面の當り左の如き問を起さしむるなり、即ち「聖書を研究するの正當なる方法は如何」と。

一、先づ我等は之を日々學ばざるべからず(徒一七)、之を無上の緊要なる事とす。聖書研究の方法が如何程善良なりとも、折節聖書研究に多大の時を用ゆるとも、若し最も良好の結果を見んと欲せば、聖書研究を一日たりとも忽にすることなきを以て根本義となさるべからず。惟一安全なる方法は之を措て他に見出す能はず、如何なる日も若し誠實なる聖書研究を爲さずして看過するが如き事あらば、我等の心情と

生命とを過誤と罪惡の中に葬むるの日なるを思はざる可からず。

著者は(トイ)基督者となりて已に年を経る事一世紀の四分の一(廿五)以上に垂んとす、されど尙今日に於て唯の一日たりとも聖書によりて己れに語り給ふ神の御聲を聴かざるの日あるなし。此點は多くの人の錯誤する處なりとす。夫等の人々は別に何の注意する事なくして一日を過ぎ、或は數日を過ごし終に怠りがちになりて神と共に唯一人ある事を忘れ、又は神の道によりて己れに語り給ふ神に傾聽する事あるなし。或時ムーデー氏の言へる事あり曰く「祈禱のうちに我等は神に物語り聖書研究によりて神我等に語り給ふ然かもわれらは神に最も多く語らしむるの勝れるに如かず」と。誠に明言と謂べし。聖書研究の目的を以て毎日一定の時を割り當て置かざるべからず。余は、我等は規則として一日に數章を研究すべしと言ふが如きは餘り善き事

とは思考せざる也。蓋し此事たるや、非常なる急ぎを以て、考ふることなくして唯々輕卒に爲すの傾向に陥り易ければなり、雖然聖書研究の爲めに毎日充分なる時を用ゆるは善き事なりとす。或人は他の人よりも聖書研究の爲に更に多くの時を得、然れど何人も一日に十五分以下の時を以て研究する事は甚だ忌むべき事となす。余は初に於て何人も其開始に當りて失望落膽せざらん事を欲ふて斯くも短き時を定めたるものとす。若し幼稚なる基督者にして聖書研究の爲め一日に二時間の多きを定めざるべからずとせば、確に其人は終極に到達せざる前にはや意氣消沈し終に失望の淵に陥入するに至るは誠に所以ある事なりとす。雖然余は非常に多忙なる幾多の人々の聖書研究のために數年間一日も缺くる事なく其日の最初の一時間を用ひ又或人は二時間を要したるを知れり。英國高等法院長たりし故ケルンズ卿は

其當時最も多忙なる一人なりき然れどもケルンズ卿夫人數月前余に告げて言はるゝよう卿は夜中如何程遅刻して歸邸するとも必ず常の如く祈禱と聖書研究の爲め例刻に起床するを恒とせりと。夫人は更に言を進めて私共は時に或は國會より歸邸するとき午前二時頃になるときもありますけれども、ケルンズ卿は祈禱と聖書研究の爲め早朝例刻に起床なされます」と語られたり。ケルンズ卿は「若し余にして其生涯に成功なしたりとせば、余は毎日最初の二時間を以て祈禱と聖書研究との習慣に歸せざるを得ず」と言へりとぞ。

何人も聖書研究の爲に正當の時を撰ぶは誠に肝要なる事なりとす。何處にても爲し得る時は、朝起るや否や直ちに聖書研究するを最良の時なりとす。最も悪しき時は即ち其日の最終時なりとす。勿論我等が眠に就く前に暫時聖書を通讀するは善き事なりとす。蓋し之を以て

我等が神の聲を聴くの後と成るやも知らざればなり。然かれども我等の聖書を研究するの大半は我等の精神の最も明瞭に又最も強健なる時に於てなさいる可からず。聖書研究の爲めに定めたるときは必ず其目的の爲めに聖く用ゆる事を要す。

二、我等は聖書を研究するに當りて組織的ならざる可からず。聖書を研究するに目的なくして爲さば幾多の時を浪費するのみなり。若し同じ時間を以て之を組織的に研究せば更に多大なる効果を看るに至るべし。諸君の研究し居る場所を確定し又研究するの計畫を定むべし。聖書研究を開始するに當り經驗なき若き基督者にとりて良好なる方法は約翰福音書を閲讀するにあり而して之を一回讀了せば再三三四之を讀み續け斯くして五回に至るべし後又同じ方法に依りて路可福音書を五回通讀すべし而して更に使徒行傳帖撒羅尼迦前書約翰

第一書羅馬書及以弗所書等を各五回通讀すべし。

此時諸君は聖書研究の更に進歩し且つ完全せる方法を採用するの準備なかるべからず。其の良き方法とは先づ創世紀に始まりて聖書を一章づつ通讀するにあり。各章を數回通讀して其章に於て左に記す如き事項を自問自答すべし。

(一) 此章に含蓄せる主眼點は何ぞ乎(一句又一節を以て其章に含める主なるものを擧ぐべし)

(二) 此章に含蓄して最も明瞭に表はされ又最も語勢ある眞理は何れなる乎

(三) 最良の教訓は何ぞ乎

(四) 最良の句は何れなる乎

(五) 茲に記述せられたる主なる人物は誰なる乎

(六) 此章に於て耶蘇基督に關して何事を教へ居る乎

此の方法に依りて聖書全篇を研究せよ

聖書の章程研究チャプター・スタディーに關して他に完全なる方法(是は聖書中の各章に應用し難きも)にして聖書中或る多くの緊要なる章に應用せば非常なる好結果を收得する也。其方法は次の如し。

- (一) 其日研究すべき一章を五回通讀すべし而して其内の一回は音讀するを要す。斯の如く新たに讀始むる毎に新たなる要點を得べし
- (二) 其章を分ち得る所にて之を區分し其最も著しき方法に記されし各區分に含めるものを取りて之に標題を附すべし。例之先づ約翰第一書第五章を以て研究する章と假定せよ。諸君は之を次の如くに區分するならん。

- 第一(一)―三)信徒の高尙なる家系。第二(四、五)信徒の光榮ある勝利。
- 第三(六)―一〇)信徒の確固たる信仰の基礎。第四(一一、一二)信徒の尊

貴き所得。第五(一三)信徒の幸ある保證。第六(一四、一五)信徒の疑はざる信任。第七(一六、一七)信徒の大權能及責任。第八(一八、一九)信徒の完全き安心。第九(二〇)信徒の貴き知識。第十(二一)信徒の不斷的義務等の如し

(三) 原譯聖書と改譯聖書とを比較して尤も大切なる相異點に注意すべし(譯者白す、原譯聖書とは今の所謂キング・ゼームス譯にして、改譯とは近時多數者に使用さるゝ英譯聖書の改正譯なりとす、之は英語聖書を讀み得る人にとりては極めて有益なるものなり。

(四) 適當の順序によりて其章の主要の事實を書き取るべし

(五) 其章中記載せられたる人物に注意し且つ其章に解説を與ふる事に注視すべし。

(六) 其章の主眼たるべき教訓に注意せよ。之等を分類するは甚だ

良し。

例之神に關する教訓、基督に關する教訓、及聖靈に關する教訓等の如し。

- (七) 其章の中心ともなるべき眞理を發見すべし。
- (八) 其章の解引節キリゾフを發見すべし若し有るとせば。
- (九) 其章中最良の一節を發見し之を記し且つ之を諸記すべし。
- (十) 其章より學びたる新しき眞理を記し置く可し。
- (十一) 既に自ら知れる眞理にして新たなる力を與へたるものを記し置くべし。
- (十二) 此章を研究したる結果として自己は何れか定まりたる事となさんと決心なせし乎。此方法によりて馬太傳、馬可傳、路加傳、約翰傳及使徒行傳、羅馬書一章至八章、哥林多前書第十二、十三及十五章、哥林

多後書一章至六章。又加拉多書、以弗所書、腓立比書、帖撒羅尼迦前書及約翰第一書等を研究せば得るところの利益眞に多大なるべし。折々他の研究法を用ひて之を變ずるも良き事なりとす。聖書研究に關して有益なる他の方法を題意トピック研究法なりとす。之はムーデー氏の得意とせし研究法なりき。聖書の教ゆる大問題を捉へ來りて、例之、聖靈、祈禱、基督の血罪、審判、恩惠、罪の赦、新誕生、聖潔、信仰、悔改、基督の品性、基督の復活、基督の昇天、基督の再來、保證、神の愛、愛神に對し、基督に對し、及萬人に對しての、天國、陰府ヨブ、地獄等ヘレを研究する事なりとす。聖書要略書に由りて之等題目の一を取りて聖書を研究すべし。(進歩せる學生のために用ふべき他の聖書研究法及更に完全なる方法は著者の書如何にして最大利益を得んため聖書を研究すべき乎に載せあり

三、我等は聖書全篇を研究するに明らかに爲さるべからず。聖

書を読む多數者は聖書中己れの好むところのみを読むの一大誤解をなせり、而して此方法に由るが故に彼等に聖書全體に通ずる知識を有する者なし。随つて彼等は亦聖書中最も大切なる幾多の眞理を失ふに至る。聖書を通じて始めては終り、終りては又始め、幾回となく讀むべし—毎日、舊約書の一部及新約書の一部を撰びて通讀すべし、毎日少くとも一篇の詩篇は必ず心して讀むべきなり

暫々聖書中の或全篇を一回に通讀するは甚だ良し。勿論聖書中の數篇を以てするも一、二時間中には讀み得るなり、然れど聖書中多數の書は一時に兩三回も讀み得べし

四、聖書を研究するに丁寧なるべし。急ぐ勿れ、聖書研究に於て最も忌むべき缺點は急ぎ且つ不注意に研究するにあり、聖書は其中に含蓄せる眞理によりてのみ善を致すものなり。之の中に特に魔力の存

するものに非らず、不注意に多くの章程を讀下するよりも寧ろ注意して丁寧に一節宛を通讀するに如かざるなり。時に或は諸君に考を要さしむる一節を發見することあるべし、急速なる勿れ。其一節に止りて留意以て之を讀むべし。諸君通讀の際何れが最も多く諸君の心を感せしめたるかを記すべし。必ずしも聖書標記の巧妙なる方法を用ふるに及ばず、單に汝に印象を與へたるものに對して記せば可なり。自己の標記せし所を沈思默想せよ。神は己れの法を日も夜もおもふ一人は福なりと宣ふ(詩三)。如何に聖書の一節なりとも忽にせず反復丁寧以て其精細にして且つ満足なる意義を得んと欲せば容易く解し得る事は眞に奇しきなる程なりとす。諸君に最も深く印象を與へたる句節を記すべし(詩一九九)。諸君が聖書の句節を誦するとき、可成俱に其所在をも諳記すべし。其句が何れの章節にあるかを確と心に留

むべし。信心深かき多忙の人或時汽車に乗込まんとするとき余に向つて「我が聖書を如何にして學びてよきか」一語を以て余に告げ給へ」と言へり余は「熟考して」と簡單に答へたり

五、聖書を研究するに比較的なるべし。是は聖書を聖書によりて比較研究をなすの謂也。聖書の最も善良なる註釋書は聖書其物なり。諸君若し聖書中難解の句を發見する事ありとも驚く勿れ蓋し其意義を説明するの句は必ず其他に存すれば也。聖書を以て聖書を比較するに用ふる最良の書は「聖書智識の寶庫」(The Treasury of Scripture Knowledge)と稱する書なりとす。此の書は聖書中各々其節に於て多數の引照を掲げ居れり。聖書中ある書を取りて節毎に通讀し、注意を以て探し求め夫の「聖書智識之寶庫」中に示されたる引照に由りて研究するを良しとす。是れ聖書研究に於て眞に功果ある方法なりとす。また章中更

に大切なる句節に於ける引照を探求し、章毎に聖書を研究するも益あり。余の知るところに依れば「聖書智識之寶庫」に示されたる引照を探し求めて聖書の句節の解説を得るは其の他の方法よりも勝れりとなす

六、聖書を研究するに信仰を以てなすべし。使徒ポロのテサロニケにある基督者に贈りたる書翰に曰く「是故に我等神に向ひ汝等が我等より神の道を聞きしとき、之を人の道とせず、神の道として受けたるを斷へず感謝す、此道は眞にして汝等信する者にまた働きて功能あるものなり」(帖前三)。テサロニケにある信徒の受けたりし如く神の道を受くるものは福なるかな。斯の如き人には「働きて功能あるなり」。聖書は神の道なれば、之を眞正のものとして學ば、其中の何れの書よりも多大の功果を受くるなり。我等は屢々聖書を研究するに當りて

聖書。以外の書と同一の筆法を以て爲さざるべからずと言ふを聞けり。此の主義は或る眞理を含蓄す然れどもまた大なる誤謬をも含蓄する事を忘る可からず。聖書は他の書籍を「書」と稱するが如く又文法上及び文學上文體の他書に備はるが如く、聖書も同一法則の下にある一書籍たる事は疑なしと雖も、聖書は是れ惟一の書たるなり。聖書は他書の如きものならずして神の道たるなり。此の事たるや公正偏私なき人に對して證明するは眞に容易なる事なりとす然からば聖書は其他の書物と同一方法を用ひて研究すべき筈のものならずして神の道として學ばざる可からず。其方法に五あり

* 著者は聖書の神の道たるを證せんために同一著者の手になれる人々に告ぐてふ書の中に説述し置きたり

(一) あらゆる總ての書物に比して聖書は何を教ゆる乎を知らんが

ために非常なる熱心と謹慎と公平とを以て聖書を研究すべし。人の意を知らんとするは須要なる事なり、然れど神の聖意を伺はんとするは絶對的に必要の事なりとす。神の聖意を發見するの場所は聖書なり。蓋し聖書は神が己れの聖意を啓示するの書なればなり

(二) 迅速に且つ疑はず承認し且つ明了に認定したる上は聖書の教ふるところに服する事。聖書の教ふるところにして、我等に不合理又は不可能に見ゆる事あらん、然かれども吾人は之を受けざるべからず。若し此書にして神の道なりとせば、我等の有限なる理論的批評の教ふることに服するとは何たる愚なる事なるぞ。一童あり其父の説明する事に對して單に己れの幼稚なる意識の爲めに其教ふるところ不條理に見ゆるの故を以て信せずとせば、それは哲學者に非らずして、愚者なるを如何せん。如此偉大なる思想家と雖も無限なる神に比せば是れ

實に幼兒のみ。神の道に於て説示せられたるものを單に我等の幼稚なる意識によりて不條理と見ゆるの故を以て之を信せざるとは、是れ哲學者のなすべき行爲ならずして唯々愚者の行ふところなるのみ。我等一度聖書の神の道なるを満足せしならんには、其の明白に教ふるところも亦吾人の爲めには諸ての議論又爭論の終極ならざる可からず

(三)、萬事萬端聖書の約束に絶對の信任を要す。聖書を神の道として研究するものは如何なる約束に就きて我等の信の及ばざる程大なるものなるにせよ、謊り能はざる神之を約束し給へり、故に余は己れの爲めに之を要求するなりと言ふべきなり。斯くて己れの要求する約束を記すべし。汝は無限なる父より毎日新たなる約束を待ち望むべし。神は汝の求めに應じて己れの富を榮光の中に備へ給へり(腓一

九)。余は日々約束を探る事を措きて他に心靈上豊かに成育するの良き方法の存するを知らざるなり。而して諸君もし之等の約束を發見し得たらんには、之を自己に適用すべし

(四)、從順なるべし。「道を行ふ者となるべし、徒にこれを聞くのみにして自己を欺く者となる勿れ(雅二)」。聖書の意義の了解を助けんとせば之に從ふの目的を以て研究するより他に勝りたる方法あるなし。耶蘇は「人若し神の聖意を行さんと欲せば、此教の何たるを知るべし」(改譯約七)と告げ給へり。服従せる意志とは明らかなる目なりてふ謂也。若し我等の目瞭なれば、要するに吾人の意志を完全く神に服従さすとの謂也、我等の全身も又明なるべし。然れど我等の目若し悪しからば、要すに我等若し二人の主に仕へんとして又一人の主、即ち神に完全く服従せざれば、吾人の全身も亦暗かるべし(太六ノ三)。諸君にとり

て曖昧に看へし幾多の句も諸君若し、諸て聖書の教ふる所に喜んで順はんか、恰も光明を踏るが如くに明白となるべし。我等に對して眞に訓誡として設けられたる聖書中にある誠律（イシヤ）には我等直ちに順はざるべからず。我等若し聖書中如何なる點に於ても不從順なるとき、聖書に對する趣味を忽ちに失ひ又聖書の教ふるところに對して其意直ちに曖昧となるは極めて著しき事なりとす。余は、屬々聖書を愛し、神に仕へて有用、又眞理に對しては明瞭なる見識を有せし人々の聖書中に順ふを悦ばざる所を發見せし々を知れり。然るに彼等が之を喜ばざるに到りし故に、其聖書に對する愛は直ちに消滅し、其聖書に對する信仰は薄弱となり、而して又彼等が眞理に關して有せし明白なる見識より離れて遙かに漂ふに到るが如き眞個可憐の犠牲となる也。從順を措きて克く他に優れて意を明かになす者あらず、汝の見る所の眞理に

從ふとは他の眞理を知らしめんとて汝に準備さする也。汝の見る眞理に不從順なるは諸ての眞理に對して汝の意志を暗黒ならしむる也。其前後の關係に依り汝に應用して明かなる命令に對して迅速、精細、疑はず且つ喜悅ある從順の精神を涵養せよ。汝の王より出づる新なる命令に注意すべし。福祉は命令に從順なる方向に存在す。神の命令は惟れ成功、福祉及び永遠の榮光を示す道程を記したる符標に他ならず。

(五) 聖書を神の道として研究するとは諸君に直接に語り給ふ神の御聲として之を研究する事を含有するなり。諸君聖書を學ばんとて之を開くとき、諸君は神の聖前にある事及今神の汝に語り給はんとするを現實すべし。汝若し自己の側に起つ者を見たるるとき、汝に語らんとする者は神なる事を眞と思ふべし。汝已れに對ひて、神は今我に語

り給はんとせり」と言ふべし。聖書を研究するに當り、汝通讀するとき、實際神の汝に語り給へるを現實に爲す事を措きて他に新たなる喜悅を與ふるものあるなし。此方法によりて爲せば聖書研究は神と俱に個人的の關係を結ぶに至るべし。是はマツヤが或日耶蘇の足下に座して彼の聲咳に傾聽せしとき有せし奇しきなる特權なりき、然れども吾人若し聖書を神の道として研究し且つ恰も我等神の聖前にあるが如き態度を持てせば、吾人は同じく神の足許に座して日々我等に語り給ふ神に傾聽するの特典を喜ぶべし。屢々義務を單に機械的に遂行せんと欲するよりも、若し人將に聖書を開かんとするとき、今我父なる神は我に語り給はんと「言ふならんには、奇しきに喜しき特典となるなり。屢々神の在す事を示さんために跪きて聖書を讀まんとせしとき、余にとりて聖書は幾分か新なるものとなりたり

七、聖書を研究するに祈禱を以て爲すべし。聖書の著者なる神は又聖書の説明者たるを喜び給ふなり。諸君若し神に願はば神必ず成し給ふ也。詩篇の記者の祈禱に「なんぢわが眼をひらきて、なんぢの法のうちなる奇しきことを我にみせたまへ」(詩二八)との如き熱心と信仰とを以て祈る者は、己れ未だ嘗つて夢にさへ見ざりしところの神の道の中に新なる美と奇とを見せしめん爲に己の眼は開かるゝを得ん。之は眞に確なる事實なり。諸君聖書を學ばんとて開くとき、たとへば數分時なりとも、汝の目の明らかに且つ辨色し得る爲めに神に願ふべし、而して神之を爲し給ふを期待すべし。諸君が聖書中艱解の場に臨むとき、之を神の聖前に置きて其説明を願ひて待ち居るべし。吾人が艱解の句を以て惱み迷ふとき、我等はあゝ余れ若し此所に聖書の一大教師ありて余に之を説明し呉れんには「と思ふの時再三なるを知らず。

神常に在せり。神は人なる師よりも更に明かに聖書を知り給ふ也。汝の悩むところを神に携へ來りて其解釋を願ふ可し。耶蘇は「彼すなはち真理の靈の來るとき、諸ての真理の中に汝等を導き入るべし」(約一^三改譯)と宣へり。神の道を研究する爲め聖靈の祐導を有つは最も謙遜なる基督者の特權なりとす。余は殆ど教育なき極めて謙遜なる幾多の人々を知れり、彼等は余の知れる有識の神學教師よりも更に克く其聖書研究によりて知識を得たるなるを知れり。惟れ彼等は己れ聖書研究をなすとき聖靈を教師として有する事は己れの特權なりとして學びたるに由るなり。聖書の註釋書は屢々大に價值あるものなり、されど人己れの聖書を研究するとき聖靈を其師として有する事により聖書より受くる眞價は既に出版せられたる幾多の註釋書を以てするも尙學び得ざる程なりとす

八、僅少の時たりとも聖書研究に使ふべし。殆ど何人と雖も其人の生涯に於て毎日必ず數分時は消失せらるゝなり、食事のとき待つ間、瀛車中に在るとき、街車にて往來するとき等の如し。常にポケット、パイプ(小形聖書或は新約書を用意し携へて之等貴重なる時を極めて有益に用ひて神の聲に傾聽すべし

九、聖書を諸君の意と心に貯ふべし。是は汝に罪を犯さしめず(詩^{一^九}改譯)虚偽の教理(徒二^{〇〇}、三^二)、(提後三^一、五^一)より救ふ可し。是喜と(耶一^六、五^一)平和(詩八^五)とを以て汝の心を充せばなり。是れ汝をして惡しきものに打勝たしむれば也(登約二^一)。之れ祈禱のとき汝に力を添ゆ(約一^五)。之れ汝をして老ひたる者及汝の敵よりも賢くなせば也(詩二^九、九^八)。之は汝をして諸ての善事の爲めに完全くして缺なからしむる也(提後三^一、七^一)。之を試みよ。妄りに諳記する勿れ、惟連續せる方法により聖書

を諳んづべし。適當なる順序によりて種々なる問題を含む句を諳んづべし。若し争ふ人あらば其句節を示して争ひ得る所を知り得んため章及節の所在を諳んづべし。諸君は研究するため善良なる聖書を有たざるべからず。其最良なる一は「オックスフォード・ツウヴァーアーション・バイブル、ウォーカー・コース、エディション」(The Oxford Two Version Bible, Walker's Edition) となりとす(附言、之の聖書は原譯及改正譯の双方を對照したるものなり)

第八章 聖書に存する困難

新たに基督者となりたる經驗少なき人は早晚聖書中了解に困しみ、信するに艱む幾多の句節に遭遇するは又止を得ざる事なりとす。斯の如く是等の困難は經驗少なき多くの基督者にとりては其生涯の進歩發達に當つて非常なる障害物となるなり。日となく週間となく月となく屢々其信仰の一部若くは其全部の毀損を蒙むるなり。斯の如き場合に臨みて要すべきものは、惟賢明なる相談敵手のみなりとす。我等は斯の如き困難の實際存在する事を好まざる也。我等は寧ろ是等の人々と面の當り、有の儘に協議せんことを希ふものなり。聖書研究をなすに思慮を有する學者の早晚出會すべき之等の困難に就きて吾人は何事を爲すべき乎

一、是等の困難に就きて吾人が第一に言はんとする事は其事の性質の如何によりて自然困難は期待せらるべき者なりとす。或人は聖書中種々なる困難の介在する故を以て恐れ且つ躊躇す、若し然からずとせば余は却つて之に驚き且つ躊躇せざるを得ざる也。聖書は如何なる物なる乎。聖書は實に無限大完全智且つ絶對に聖き神の精神意志、性情及實體の啓示に外ならず。然れども此啓示は何人に對して爲されたるか。之は諸君及余の如き男女即ち有限者に對して爲されしものなり、之は智能的發育の不完全即ち知識に關しての不完なる者及性情(即ち心靈)的意識の完全ならざる人々に對して爲されたるもの也。此の如き人に對して與へられたるなれば之の啓示中に困難の多く介在するは亦止を得ざるに出づる也。有限者が無限者を了解せんと欲するには困難に遭遇するは必然の理なりとす。無能力者が完全に

智識を有する者の言語を解せんとするには幾多の困難に遭遇するは不思議の事ならず、而して其未熟にして且つ精密ならざる者にとりては不條理に見ゆるものあるべき也。罪惡に充滿せる者が絶對に聖き者の要求を傾聴するとき、彼等は其要求する所のものによりて躊躇するは必然の事なりとす。而して此の如き人は又神の待遇を想ふとき、彼等は其待遇する所のものによりて躊躇するは必然なる事とす。是等の待遇たるや餘儀なく嚴酷激烈過ぎるが如く見ゆるべし。茲に聖書の證明するが如き此啓示中には吾人に對して困難なる事は明白なる事とす。若し人ありて乗算表の如き極めて簡單容易なる書を余に手渡して「之は神の道なり、此内に神の完全き意志と智識とを現せり」と言はん、余は首肯せずして「余は信する能はず、そは限りなき智識の完全なる啓示としては容易に受容する能はず」と言はん、神の智識、

意志、性情及實體の完全なる啓示中には初心者にとりて了解に困むものゝあるは又止を得ざる事なりとす、而して我等の中最も智慧あるもの、最も善良なるものも惟れたい初心者たるのみ也。

二、是等の困難に就て、第二に言はんとするものは教義に關する困難或は、教義に對する大反對と雖も如何なる方法によるも教義を不眞實と證明し得ざる事なり。多くの思慮なき人は爲し得ると想像するなり。若し是等の人にして聖書の神に其基礎を有し且つ絶對に誤謬なき事を信せんとし其中途に於て或る困難に遭遇する時あれば、彼等は忽ち此教義は棄つるに如かずと結論するに至るべし。是は極めて非論理的なり、先づ暫時止まりて靜思し而して此事の道理に適ふや又明かなるやを闡明せざるべからず。今日普通に科學上教義と稱せらるゝ者を見るに、其承認せらるゝに至るまでは、中途非常なる困難に遭

遇せざるものは眞に稀なり。現今既に世界に承認せられたりと雖も、カバルニカスが始めて地動説を確信せし當年に在りては非常なる辛若困難に出會せしなり。若し此説にして眞なりとせば如何、金星は月に存するが如き變形を有せざる可からず、しかも其當時現存せし最良なる眼鏡に由るも發見するを得ざりしを如何にせん。然かれども此説に對する積極的の論證即ち確證は極めて強勢にして明白に答ふる能はざる程の反對ありたるにも拘はらず、受理承認せらるに至れり。斯くて後更に強力なる眼鏡の製出せられたるとき、結局金星には變形の存する事を發見するに至りたるなり。聖書中種々なる難事に出會する如く全くの困難事は其場合に於ける或事實を知らざるの無能力より起るものとす。科學の各方面に涉りて認められたる常識論理に遵へば、若し或説に關する確證にして終局ならんか、如何程多數の困難

に遇ひ且つ其の説明を爲すとも、有識者の信據する所となるべし。偕聖書は神の道なり、換言すれば、聖書は神が自己に關して己れの目的、意志及人の義務又運命に關して、靈的實在及永遠の事實に關して完全く信據すべき啓示なりて、ふ確證は全く結局なるものとなす。故に有識の人は其男女たるを論せず、僅少なる條件を有する幾多の困難を排して之を信せざるべからず、既に満足なる證明を有する眞理を唯己れが其眞理と一致調和し能はざる或事實を有するの故を以て見棄つるが如き事あらば其人は實に淺薄なる思想家と言はざるを得ず。又聖書の誤謬なき事と其神より出でたる事とを、惟己れの假定なしたる事實と其教義とが一致調和せざるの故を以て顧みざる者あらば其人は極めて淺薄なる聖書學者と謂はざるを得ざるなり。

三、第三に聖書中困難なりと稱せらるゝ事は聖書は、人の手により

て成るが故に誤謬なしとは言ひ難しと主張する事の却つて聖書は神の道なるが故に凡て信據すべきものなりて、ふ事を主張するよりも更に多くの困難を覺ゆる事なりとす。人あり諸君の許に或る難事を携へ來りて「足下、若し聖書が神の道なりて、ふ事を如何に證明するか」と云はば、諸君恐らくは彼の充分満足するまでに答ふ能はざるべし。然らば彼得たりと思ふべし。翻て彼に問ふに「足下、若し聖書の人手によりてなりたる者とせば、其預言の成就に關して如何に憶ふ乎、聖書の奇なる一致に關して足下は如何に思ふか、又足下は其深遠廣濶にして無盡藏なる事を如何に想ふか、又足下は人々を神に導き向上なさしむる惟一の力を有する事を如何に考ふる乎、足下は此書の歴史に關し及び無數の人の攻撃せしにも拘はらず、之に勝ちたる事實を如何に判別する乎等を以てすべし。蓋し彼が諸君の許に趣意なき反對を捉へて來る

毎に諸君は却つて彼に多くの意味深重なる反對を示すべし而して公明無私の人は之の二個の問題を決定するに困難を感ぜざるべし。聖書は神より出で且つ正統なりてふ事を拒否する人に對抗するの困難は、聖書は神より出で且つ正統なるものなりてふ事を信する人々に對抗するよりも更に重且つ大なる事を覺ゆるなり

四、第四に聖書中困難なりとせらるゝものは諸君が證明し得ざる或難事即ち解するを得ざるものを解し能はず又少しも證明し得ざる反對即ち答ふるを得ざるものを答へ能はざるの事實なりとす。屢々斯の如き極めて明白なる事實を看過する事は不思議にもある事なりとす。

多くの人は聖書中一難事に出會する毎に之を唯少しく考へて適當なる解釋を見ざる場合には直ちに一足飛に、是は何人たりとも解決す

る能ざる事なりとて、結論を下すなり、斯の如く聖書及聖書の神より出でたる事を信任するの信仰を放擲するに至るなり。謙遜なる者即ち我等の如く知識に限り有る者に至りては彼等に告ぐるに假令余は此難事に對して適當なる解釋を見る能はずと雖も、余よりも知識に於て優れる者は容易に之を解決し得るなりと言ふなり。あゝ我等若しわれらは萬事を知るを得ず、又我等現今にては解し得ざる事の他に夥多あるとも我等今少しく智識あらば容易に解し得る事を自ら心に留めざる可からず。之の外我等は我等の如き有限の知識を有する者即ち無能者にとりては解し得ざる事も無限の知識を以てせば容易に解し得る事を決して忘却なす勿れ。我等代數學を學ぶ初心者に就きて考ふるに、彼は一難題を解するに凡そ半時間も無益に消費するなり、而かも彼は之の解決を得ざる故を以て不可能の事と公言し得るか。經驗

に富み且つ才幹あるの士或時己れの仕事を棄て、精神を亂し、長途を歩みて余に面會せんとて來れり。蓋し彼は聖書中己れにとりて眞に矛盾と見ゆる所を發見せしに由るなり。こは調和レコンシリエーションに關して凡て彼の企望を辱かしめたり、然れども數分時ならずして彼は其困難に對して甚だ單純且つ満足なる解釋を見るに至れり

五、第五に聖書中困難なりと稱せらるゝものは、之の書に見ゆるところの缺點は、其幾多不思議なる秀逸なるものと比較するときは特に無意味なるにあり、是は確かに、意志及心情の大曖昧を示すものなり、即ち人々は自ら聖書の中に於て缺點と思考する無意味なる點にのみ涉獵して、多くの時を浪費し、却つて其内に殆ど各頁に涉りて修飾、崇高及光輝を以て餘す所なく且つ之に比ぶる能はざる程なる美と奇とを全く不注意に看過するにあり。我等我が藝術の大傑作を研究するとき

唯其一角に蠅汚の如く見ゆるものに己れの全精力を傾注する人に對しては何と思はざるべからざるか。所謂「聖書の批評的研究」として誇るところの大部分は蠅汚と思はるゝ處を學者然として研究し、而かも其書に存在する估價し難き光榮に就きては完全く怠るにあるなり

六、第六に聖書中困難と稱せらるゝものは、聖書に存する難事は博識なる學者よりも寧ろ多くは迷信的讀者の中に發見せらるゝ事なりとす。試みに聖書の眞正なる内容及意義に關して全然無識なる人而かも己れの全精力を盡して其書中に存在し明白に矛盾せるものを發見せんとするの人を取るべし。斯の如き迷信的聖書研究者にとりて其困難は實に計りがたき程に重要なるものとして視るなり。然れども夜も晝も神の道を思はんとて學ぶ人にとりては、此如難事は少しも困難なる事にあらざるべし。聖書を始めより終りまで約そ百回も注

意して研究なしたる、夫の神の人、チヨード、ミユラーは己れの遭遇せし如何なる難事よりも何等の障害を蒙むらざりき。されども唯一、二回のみ注意して聖書を通讀する人にとりては、迷ひ又躊躇する事は度々有るべし

七、第七に聖書中困難と稱せらるゝものは此如困難と雖も注意と祈禱によりて研究せば直ちに霧散する如くに消失する事なりとす。聖書中には一度我等を迷はし又躊躇なさしめしものも全く明亮と爲り、且つ最早少しも如何なる困難と雖も些少も感ぜざるに至りし事、再三ならず、如此くは猶殘留せる困難と雖も、更に進んで研究せば消失すべしと假定するも不合理の事なりとする乎

我等はわれらが聖書中に發見する困難に對して之を如何に處理すべきか。

(一)、先づ正直に爲すべし。諸君が聖書中に或困難を發見する毎に、之を正直に認むべし。若し諸君にして善良、正直なる解説を與へ能はざれば、少したりとも他の解説を施さんと企つる勿れ

(二)、謙遜に爲すべし。諸君自からの意志と知識とに限界ある事を認むべし、而して諸君が發見し得ずとの故を以て、此以外に解説を與ふるの餘地なしと想像する勿れ。必ず九分九厘までは極めて單純なる解決の存するものなれば也、假令現在に於ては全く解決し能はずとも、諸君は何れの日か之を發見するに至るべし

(三)、決心を以て爲すべし。諸君若し研究の度を積み且つ辛苦して考へたりとすれば、解決を受る事を決心すべし。聖書中にある困難は諸君の頭腦を充分働かさんとの天父の試合に外ならず

(四)、恐れずして爲すべし。諸君たとへ難事に出會するとも恐るゝ

勿れ。最初の一覽によりて如何に答へ難く見ゆるも之を意に介する勿れ。數千の人は諸君よりも先に此經驗を甜めたり。彼等數百年以前に之に遇遭せしなり、然かも此古書は依然として殘存せり。諸君は未だ看破せられず、また恐くは諸君が生れざる前に決定せられざりし或難事も同じく看破し得ざるなり(譬へ諸君は此解決を何處に看出さんかを知らずと雖も)。嚴格なる試験と間斷なき懼るべき嘲罵の中に十八世紀間を經過したる此聖書は諸君がなす如何なる新發見の前にも將又近世の不信仰者の攻撃の前に立ちても決して敗北せざる也。聖書に對する近來の不信仰なる諸々の攻撃は單に過去に於て數百回も試みられたる極めて古き反對の再演に過ぎざる也。如此古き反對は彼等が過去に於て已に放棄せらるべき衣を用て來るともよし又更めて其新衣装を用ひて來るとも最早何等格別の功果ある事を證明する能はざる可し

(五) 忍耐を以て爲すべし。諸君は一日に各問題を解し得ざるの故を以て失望落膽する勿れ。若し或難事の諸君の熱誠なる盡力を蔑視するとも暫時顧る勿れ。同之諸君が之を思ひ直すとき其困難は消失すべし、而して諸君は己れ曾つて之に由りて迷はされ居りたるかを奇しむなるべし。著者は今日と雖も屢々己れが現今は既に日を見るが如く明々白々なる問題なりと雖も過去に於ては如何に甚しく迷はされたりしかを思ふとき微笑することある也

(六) 聖書的に爲すべし。諸君若し聖書の或部分に困難なるものを發見するるとき之を解決すべし。聖書を説明するには聖書を措きて他に其類ふべきものあらず。明かに曖昧なる聖句をして、明亮なる句より來るところの光を暗ましむる勿れ、寧ろ明白なる句節より來る光明をして曖昧を以て圍繞せられたる句節を輝かすべし

(七) 祈禱を以て爲すべし。人若し一困難に遇ひたる時、祈禱を以て之に望むときは不思議に解し得るなり。何故に近時の學者輩が破壊的批評學を學びたる一大理由は即ち彼等が如何に祈るべきかを忘却せしに基因する也

第九章 祈 禱

祈 禱 (七九)

基督者の生涯に於て成功せん事を望む者は祈禱の生涯を送らざる可からず。今日基督者の生活に於て又其事業に於て多く見る所の失敗は屢々祈禱を怠るに歸因するにあり。基督者として爲すべき筈なる祈禱に於てすら多くの時間を用ひる人の極めて少數なるを如何にせん。使徒ヤコブは當年の信徒輩に對つて彼等の生活と職務の困難及無力の原因は奈邊にある乎とせば、祈禱を怠るより來れるなりと告げたり。神は使徒ヤコブの口を藉りて「爾曹は願求はざるによりて得ざるなり」と語り給へり、而して今日も又斯の如し。幾多の基督者は何故に余は基督者として斯くも價值なき道程を送りつゝある乎と問ひつゝあり、余は何故に罪に打勝つ事斯くも弱きか、何故に余は斯く力を

用ひるも尙充分成就し得ざる乎と問ひつゝある也。然かも神は答へ給ふて曰く「爾曹は願求はざるによりて得ざる也」と

人若し決心さへなせば、祈禱の生涯を送る事は、誠に容易なる事なり。毎日祈禱の爲めに或時を定め置くべし。タビデとダニエルが一日三回と定めたるが如き規定は誠に善きものなり。タビデは夕にあしたに晝にわれなげき且つかなしみうめかん、神我聲をきゝたまうべし(五詩)と曰へり。ダニエルにつきては我等次の如く讀めり、茲にダニエルは其詔書を認めたる事を知りて家にかへりけるが、その二階の窓のエルサレムにむかひて開ける處にて一日に三度づゝ膝をかゝめて禱り、その神に向ひて感謝せり、是れ其時の前よりして斯くなしいたれば也(但六ノ)。勿論、何人も街路を歩行き居る間、或は街車に乗り居る間にも、あるは机に倚りて居る間にも祈禱し得るなり、然り何人と雖も

其生活の最も多忙の中にありても神に其心を傾け、己れの心を向上せしめざる可からず、されど我等は祈禱の時を定むるを緊要の事とす、即ち我等は唯獨り神の下に到り戸を閉ぢて隠密の所に在まして、彼所にて我等と共に會ひ、我等の悃願に傾聽し給ふ神に會ふを要す

祈禱は實に不思議の特權と言はざる可からず。是によりて王に謁見するなり。これ、わが父に語るなり。人々が「余は幾何の時を祈禱に用ゆべき乎」と問ふは如何にも意外なる事也とす。如何なる場合と雖も、臣下が其王者に召されたるときさへも、余は幾何の時を王と共に用ゆべきかと問ふものは決してあらざる也。彼は寧ろ「王君は余に幾何の時を與へ給ふ乎」と問ふならん。祈禱とは眞に如何なるものなるか、これ即ち王の王なる君に謁見するなりて、ふ事を現實する神の眞の子にとりては、此問題の「余は祈禱に幾何の時を用ゆべき乎」に非ずして、却

つて余は他の義務及特權に對して相應の尊敬を要する如く、幾何の時を祈禱に用ひ得る乎なるべし

日毎に感謝と祈禱とを以て始むべし。既に過去に於て一定して受けたる恩恵を感謝し、今日一定して要するものゝ爲に祈るべし。諸君は其日中必ず遭遇すべき誘惑を思ひ且つ其遭遇すべき誘惑を知らんが爲に神に求めて之等の誘惑に遇はざる先に之を征服し得るの力を神より受くべし。幾多の人が其戦闘に於て何故に失敗する乎蓋し理由は彼等は戦闘を開始する期の將に切迫するまで便々として處致せざるに基くなり。而して何故他の人は克く成功する乎と謂はんに、彼等は戦闘開始に先ちて常に怠らず跪き、祈禱を以て之に勝ちたるが故なり。耶蘇夫のピラトの恐しき判庭に於て又十字架に於て夫の勝利を見たるは、彼が其前夜此戦闘あるを豫期して終夜祈禱を以て戦の起

らざる前既に勝利を得たるに由らずんば非ず。彼は其の弟子等に誨へて祈禱を爲すべしと告げたり。彼即ち彼等に告げて「誘惑に入らざるやう祈るべし」と曰ひ給へり、然れど弟子等は祈禱るべき筈なるに却つて寝り居たり、故に誘惑の到來したるとき失敗するに至りし也

諸君戦の來るべきを豫想して誘惑の來らぬ先きに祈を以て之と争ふべし、さらば諸君は常に勝利を得べし。日毎の仕事が始むるに先ちて其日の務の爲めに神に圖りて神より力を受くべし

業務の繁雜なるの故に由るも決して祈禱を怠ること勿れ。如何なる日と雖も其業務の多忙なる日は、殊更に其事務の準備の爲め多くの時を祈禱に用ゆるを要す。諸君は祈禱する故を以て時を消費するなく、卻て之に由りて時を得るべし。祈禱は常に人の知るが如く、時間の一大救濟者なり。諸君は事業の繁多なるに従ふて祈禱を繁く且多く

務むべきなり。日々騒亂奔走及誘惑の中間にありて暫時休止し以て感謝と祈禱とを献ぐべし。日中唯獨り數分時間神に見ゆる事は、近時生活の困難煩累に介在する諸君をして平和安意ならしめ、悠々如として其生涯を送り得る也。

感謝と祈禱とを以て、其日の終りを告ぐべし。其日受けたる凡ての恩恵を再思して一々之を詳細にし神に感謝すべし。毎日神が諸君に賜ひたるものを其日の終りに安靜以て再顧するに優りて神及神の道にある信仰を増さしむるもの他に其類を見ざる也。既に得たる福祉を熱實に感謝する事を措きて何物か克く新に且大なる恩恵を神より受くる事の優れるものあらざる也。

毎日諸君が最終に爲すべきものは、若し其日神の聖前にて其悦び給はざるものを爲したるかを已れに示されん事を神に求むるにあり。

而して暫時靜座して神が諸君に告げ給ふの期を待つべし。靜かに傾聽せよ、急ぐ勿れ。若し其日神の好み給はざりし事を神汝に告げ給へば、之を隱藏するなく明らかに、聖き愛の父に告白すべし。神の凡て之を赦し給ふ事を信せよ、蓋し神赦し給ふと告げ給へばなり(壹約二)。斯の如く毎日其日の終りに於て凡ての計算を神と共に眞直に爲し遂ぐべし。諸君は已れと神との中間に一點の暗雲だにあらざれば、歡喜の念を以て靜かに眠に就くを得べし。而して諸君は翌日起床して清淨なる計算表をとりて新なる生活を始むるを得べし。之を行へさらば諸君は、少なくとも其日に於ては神の教に背く事なかるべし。眞に諸君は全く背教する事あらざるべし。事務取扱上期過ぎ延滞し且つ曲り歪みたる勘定を清算するは甚だ困難なる事なりとす。如何なる銀行と雖も其日の帳合に於て全く正確なる計算を見ざる以上は決して

事務を終結するにあらざるべし。斯の如く基督者と雖も其日のために神と共に静かに全く修整せん爲己れの計算を爲さなければ只の一日たりとも過すべからず。茲に又特別な誘惑に對して又特別な祈禱を要す、即要之、誘惑の接近しつゝあるを見たる場合に於ける如し。若し諸君出來得べくば直ちに神と共に或場所に赴きて之の誘惑と戦ふべし。神を常に望みて「斷へず祈るべし」(前提五)。常に跪くの要なしと雖も其衷心の情は常に跪きたるの態度を取るを要す。如此は實に繁雜勞苦より離れたる自由に且つ喜悅ある生活と言はざるを得ず。何事をも思ひ煩ふ勿れ、唯毎事に祈禱をし、懇求をなし、且感謝して已が求むる所を神に告ぐべし、而して凡て思ふところに超越る神の平安は汝等の心と意とを基督耶穌の中に守り給ふべし(改譯四六七)。

基督者の生涯に於て成功を希願ふ人の特に祈らざるべからざるも

の三あり、即ち一、智識を得んため、汝等の中若し智慧足らざるもの(我等は比々皆然り)あらば……神に求めよ、二、力を得んため、されど主を俟望むものは新なる力を得べし(賽四〇)。三、聖靈を受けんため、汝等の天に在す父は求むるものに聖靈を予へざらん乎(路一一)。譬へ諸君聖靈を受けたりとも諸君は更に新たなる聖靈を以て充されん事を斷へず祈りて確かに之を得んとて期待せざる可からず。吾人は基督者たる生涯に於て新たに起るべき火急の場合と其職務との爲めに聖靈を以て新たに満たされざる可からず。使徒ペテロはペンテコステの日に聖靈を以てバプテズマを受け且つ充たされたり(使二四)。されど彼は使徒行傳第四章八節及三十一節に於て記されたる如く再び新たに聖靈を以て満さるるに至れり。世には一度極めて確實なる聖靈のバプテズマを受け、非常なる歡喜を得而して奇しきなる程に働きたる幾多の基

督者あり、されど其後に於ても尙數年前受けたる聖靈のバプテズマの力を以て其生涯を送らんと思へり、而かも今日にては之等の人々の生涯は比較的、喜びなく又力もなき有様なり。吾人は斷へず我等の燈火の爲めに備への油を新たに供給するを要す而して我等は此の如き油の新たなる供給を其燈火の爲めに願求ふ事によりて得るなり。

我等が神と共に唯獨り隱密の祈禱の時を有すと云ふ事のみにては未だ充分ならず、我等は又他人と祈禱を共にし、また祈禱によりて結合する事を要するなり。若し是等の人にして諸君の教會内に祈禱會を催す事あらんには正しく規則的に之に列席すべし。諸君自らの爲めに列席し又教會のために列席すべし。若し其祈禱會にして有名無實ならんか名實備ふる眞の祈禱會とせん、爲めに辭に斷へず而かも干渉する事なくして諸君の感化を用ふべし。其目的の爲めに祈禱會の夜

を聖く送るべし。其夜に限りて全く社交的の約束關係を斷るべし。

北米合衆國の陸軍に奉職する一少將は或時或る新任地の司令官となりたりしかば其所に在る人々は或夜同少將の爲めに歡迎會を催さんとして準備し其事を同氏に通謀せしとき同氏の答に曰く、其夜は祈禱會の夜なれば何事を措きても此祈禱會に列席せざるを得ず故に遺憾ながら余は其夜の歡迎會に出席する事を得ざる也と、夫の將官は身自ら信任し得るの人たる事を證するに足る也。米國にある基督教會は米國軍隊に奉職する他の多くの高等武官よりも更に多く此人に負ふ所ある也。教役者は其祈禱會々員に依頼すべき事を學ばざる可からず。祈禱會は教會に於て最も肝要なる集會なりとす若し諸君の教會にして祈禱會の存せざれば必ず設置せんために諸君の感化勢力を勉むべし。善良なる祈禱會は必しも其數の多少に關せざるべし、諸君は二人

にて開始し多数に代りて働き得るなり

諸君の眞に相同情し得る主にある友の一小團を以て會合すべし單に祈禱する目的にて毎週正しく列席し得るものゝみにて可なり。茲數年來余の聖靈的生命の進歩發達を得たるは數年間毎週土曜日の夜十二人以下の友と共に催す祈禱會にて得たる事を措きて他に更に如此肝要の事を知らざる也。我等は集合し相共に神に奉仕せり。若し余の生涯にして少したりとも主の爲め益する所ありとせば余は主として之を祈禱會より受けたる賜物に歸せざるを得ず

祈禱の爲め規則正しく相共に會合し得る友等の一小團を有する經驗少なき基督者は實に幸福なるかな

若し讀者の中祈禱に關して更に満足し且つ正確なる教訓を得ん事を希望するの士は余の著如何に祈るべき乎に就きて見らるべし

第十章 基督の爲め働く事

基督者の生涯に於て發育成長及健康に關して必要なる條件の一は働く事なり。何人と雖も運動する事なくして己れの體力の健康を保持する事能はざるなり而して是と同じく靈的の運動を爲さずして約言せば主のため働かずして己れの靈的健康を保持せんとするは不可能の事に屬する也。常に活潑に働く基督者は幸福なるクリスチャンなり斷へず活動する基督者は強健なるクリスチャンなり。或る基督者は教に背かず蓋し彼は常に主の爲め働きて繁忙を極むるが故に背教するの餘地を有せざればなり。幾多の基督者は己れが主の爲めに働く事を怠り過るが故也。耶穌は初代の弟子等に向ひて「我に従へ我汝等を人を漁るものと爲さん」(太九四)と宣へり。何人を論せず人々の

漁夫ならざる者は基督に従へる者ならず。他を導きて救主に伴ふに
より果を結ぶ者は耶蘇が我等を撰び給へし目的にして且つ祈禱の力
なる最大要件の一なりとす。耶蘇は約翰傳第十五章十六節に於て「な
んぢらは我を撰ばず、されど我汝等を選べり且つ汝等をして往きて實
を存せしめんがため又汝等の凡て我が名に託りて父に求ふ所の者に
彼をして汝等に賜はせんが爲に我汝等を立てたり」と宣ふ。耶蘇の宣
ひし此の語は實に明白なり、即ち實を結ぶ所の人は基督の聖名に於て
祈り且つ彼の其名によりて求むるものを與へられ得るものなりと。
同じく第十五章に於て耶蘇我等に告げて、神の力によりて實を結ぶは
是れ歡喜に充ちたる情態なりと宣ふ。我この事を爾曹に語るは(要す
彼に居れりとの事及彼の力に)我喜なんぢらに在りて爾曹の喜を盈しめん
が爲なり(約一五)と耶蘇宣ふ。我等の主の語の眞理なるは經驗により

て充分證明し得るなり。他人を基督に導くに活潑にして満足の働を
有する人は基督にありて喜に盈ちたるの人なり

若し諸君福なる基督者たらんと欲せば、もし諸君強健なる基督者た
らん事を欲せば、もし諸君祈禱の力を有するクリスチャンたらん事を
願はゞ直ちに主の爲めに働くべし、而して一日たりとも主のために、あ
る定れる仕事を爲さずして看過する事勿れ。雖然如何にせば若き基
督者は主の爲めに働き得るか、如何にせば經驗に乏しき基督者は實を
結び得る乎。之に答ふるは極めて單純に且つ極めて容易なる事なり
とす。即ち諸君は主の爲めに、人々の許に往き、救主が諸君になし給ひ
しことを告げ、而してこの同じ救主を接けん事を彼等に促し又之を爲
すに如何に爲すべき乎を示す事によりて實を結び得る也。斯の如く
容易にまた喜ばしく且つ充分結實する、所謂個人傳道の如き働きは此

世に於ては他に見出し得ざるべし。最も經驗に乏しき基督者と雖も個人傳道は爲し得る也。勿論彼は幾多の經驗と實歴を得たる將來に於て爲すが如くに好良く爲し得ざるべし、然れども如何に之をなす乎を學ぶ方法は働く事を措きて他に非るべし。余は己れが悔改めたる日に基督の爲め働きを開始し且つ他人を基督に導きたる幾千の人の世界に散在するを知るなり。屢々青年男女、然り老たる男女等の「余の許に來りて余は昨夜耶穌基督を我が主、我が王、又我が救主として接けたり而して今晚一人の友を基督に導き來れり」と告げたり。翌日もまれた來りて己れが他の者を基督に導きたりと告ぐる者ありたり我等の嘗てシエフィールドにありたるの日、或倉庫に勞働する一青年は基督を接け容れたり。同所にて數ヶ月に亘る傳道の終りに當りて、かの青年は三十人を基督に紹介なしたり、其内の多數者は彼と共に倉庫内

に勞働し居る者なりき。是れ數多ある中の唯一例に過ぎざるのみ。著者の手になる「如何にして人々を基督に導くべき乎」(譯者言ふ此書は「人して既に譯出され、數」文館にて發行せり)と言ふ書あり、此筋の好著なり。如何にして個人傳道を爲すべき乎を教ふるの書は其數甚だ多し

雖然人は。自ら之を始むるに當りて、先づ此問題に關する或書を閲讀し終るまで便々として待ち居るの要あらざるべし。最も普通に行はれ、又最も大なる誤謬の一は準備々々、何も彼も準備の後とて其生涯を空費する事なりとす。或人は決して準備整はざるべし、整然備ふるの途は唯直に開始するにあり、諸君は少なくとも毎日一人に向つて基督を接くる様語るべき事を決心するを要す。ムーデー氏は信者となりたる日に既に自ら少なくとも一人には基督に關する物語を爲さざれば其日を過す事能はじとの決心をなしたり。或夜のこと彼は己れ

の働より遅れて歸宅する途上、己の家に間近くなりたる時、彼思へらく余は今日何人にも基督に就きて語らざりしとて自ら曰く「倍も今や既に遅し。余は機を得る能はず、斯くて此日も基督の證をせず、に過さざる可からざる乎」と。然るに彼は己れよりも數歩先きにある街燈の下に一人の男の佇立せるを見たり。故に己れを顧みて曰く「あゝ、こゝに余の爲め備はる最後の機會あり」と。此男はムーデー氏全く知らざる人なりき、されど彼の男は彼のムーデー氏なる事を知り居たり、ムーデー氏は大急にて彼に近接し、貴君はクリスチャンですかと尋ねたり。彼男の曰く「余がクリスチャンなるもならざるも、何ぞ豈君の關する所ならず、若し貴君が説教者の類にあらざれば、余は汝を溝中に叩き込む積なり」と答へたり。されどムーデー氏は尙熱心に數言を語りて其所を通り過したり。其翌日彼男は非常なる憤怒を以て、ムーデー氏

のシカゴにある商賣仲間の一人を呼びて曰へるやう、君の友人なる夫のムーデーと言ふ男はノースサイドの所で、彼は善き事よりも更に悪しき事をなしたり。彼は一体智識のない熱心を有して居る。昨夜彼は全く見す知らずの余の前に來りて、余がクリスチャンであるかなきかを質したり。故に余は彼に告げて、若し彼が説教者の類でなくば溝中に叩込む積なりと聞かせやたり。ムーデー氏の友、彼を呼入れて曰く「君は善き事よりも更に害をなす、君は熱心なれど考がない、君は昨夜路上我が友人を侮辱せり」と。ムーデー氏は稍意氣消沈して出で行きたり、蓋し彼は恐らくは益なる事よりも害をなしたり、また恐くは思慮もなく熱心なりしと思ひければ也。然れども數週間後に於て或夜深にムーデー氏の戸口を烈しく叩くものあるを以て、ムーデー氏は我家の火災にかゝれるならんと思ひて早速床より跳起き、戸口の方に疾

走したり。然るに、夫夜路上にて見たる彼男の戸口に佇立せるを發見したるを以て怪しみたり。彼男告げて曰く、ムーデー氏よ貴方が夫の夜街燈の下で私に話して以來私は一夜たりとも安眠する事なし、故に私は救はれん爲めに何を致して宜しき乎を伺はんために斯く御尋ね致しました」と。ムーデー氏は其夜彼男を基督に導きたる事を非常に喜びたり。眞に熱心なき知識を有するよりも、知識なき熱性を有するは大に優る事なりとす、然れど知識ある熱性を有する事は尙更宜し、而して何人も之を有し得るならん。智識を得る途は經驗にあり、經驗を得るの途は働きを爲すにあり、己れ何事も出來ずとて失策する事を恐るゝ人は何事も學ぶ能はず。進みて己れの全力を盡し、失策を喜んで試みる人は將來に於て起るべき失策の豫防を學ぶ人なりとす。余の嘗て知り居る最も才幹ある人の或者は未だ眞に何事も成就せざる人

なり、蓋し甚だしく失策する事を恐るゝが故なり。余の知り居る最も有要の人物中、ある者は其初期に於ては最も僅かに期してかゝりたる人々なり、然れどたとへ其初期にありては失策すべき種々なる方法によりたるなれど、彼等は眞に人々を愛して進み、終りには何事も好く爲し得るの經驗を得るまで失策に失策を重ねたる人々なりき。諸君失策する故を以て失望落膽する事勿れ。方針を定めて堪へ忍びて續くべし。正直なる失錯誤謬は將來成功に到達すべき階梯なりとす。毎日何人なりとも基督に導くために試むべし。勿論諸君は毎日成功を見ざるべし、然れど兎も角も此働きは諸君を益すべし、而して數年の後に諸君は屢々己れの考へし事の非常なる失策を來したる事を發見して最も善良なる結果を收むる事を發見するならん。諸君に對して最も怒り易き人は終には諸君にとりて屢々最も有益なる人と變化する

なり。望を囑して堪へ忍びて失望するなからん事を

祈禱表を製作すべし。單獨以て神に交るべし。各頁の初めに神我を援け給ふ、我は日々祈り且つ次に記せる人々の悔改めん爲めに熱心に働く事を誓約すと記すべし。後ち跪きて何人の姓名を記さんかを示されん爲めに神に求むべし。諸君の祈禱及働の機械的若くば迷信的に陥らざる爲めに表を餘り長く作る可からず。諸君が表を作りたる後は必ず其約束を嚴守すべし、眞に彼等の爲めに日々祈るべし。此の人々に接して語るべき機會に注意せよ是等の機を使用すべし。諸君は其中の或人に對して随分長き間、機會を注意する事もあらん而して諸君は屢々會談する事もあるべし。然れど中止する勿れ。余は一人の爲め殆ど十五年間祈り居たり、其人は余が嘗て遭遇せし中の最も失望せし一人なりき、而かも彼が終に悔改めたるを見たり而して福音

宣傳者となりたるを知る又彼によりて幾多の人々は悔改めたり彼今や榮光の中にあり

トラクト(小冊子)の使用を學ぶべし。種々雑多の方面の人々に適當する様少數の良きトラクトを用意し其人々の必要に應じて是等のトラクトを使用すべし。トラクトを使用したる後ちは祈禱の力と人の盡力とを要す。諸君は牧師の許に往きて、若し教會にて己れに適當なる働きの有るや無きやを尋ねよ、諸君の牧師の信任し得るところの人となれ。今や我等は教會以外にて成すべき種々なる働の存する時代に生存す、しかも是等の働たるや、皆有益なるものなれば其中諸君に適當するものを選びて働くべし、されど諸君は己れの第一義務は諸君の屬する教會の爲めに成すべき事を忘る可からず。諸君の牧師の倚賴する人たれ、諸君の牧師は諸君を要せざる事あらん、されど少くとも諸君

を拒む機会を興ふ事勿れ。若し不幸にして彼の諸君を拒む事ありとするも失望する事なくして其他何れにてか働くべき所を發見すべし。成すべき事の多くして成すべき人の少數なるを如何にせん。蓋し此事たるや救主の時代に於て見たる收稼は多く工人は少し(三六九)是故に其稼主に工人を收稼場に送らん事を願ふべし(三六九)との事實は今日にありても矢張同じき事なりとす。故に神の諸君を送り給はん事を祈るべし(三六九)。宣教者として適當なる人を要するや切なり。外國傳道事業のために適當なる男子、女子を要すや又切なり。然れど諸君は外國傳道事業の爲には適當なる人々たらざるべし、しかも教役者及外國宣教師の事業の必要なるが如く諸君の地位にて爲すべき必要なる事業は尠少ならざるべし。*諸君は諸君の地位に應じ又好く之に應じ得るを知るべし。

*著者の書如何にして基督の爲め働くべき乎は我等、主の爲め働くべき幾多の方法を記述しあるなり

第十一章 外國傳道

基督者たる生涯に於て大なる成功を得んとせば其人は必ず外國傳道に趣味を有するを要す。吾儕の主が此世を辭せんとなし給ふに當りて最後に下し給ひたる命令は是故に汝等往きて萬國の民にバプテズマを施し、父と子と聖靈の名に入れて弟子となし、且つわが凡て汝等に命せし事を守れと彼等に教へよ(教育せよ)夫われは世の末まで常に汝等と偕に在るなり(改譯太二八ノ二九一三〇)。茲に命令と約束とあり。是は聖書中見るべき最も美しき約束なりとす。されど約束の喜悅は命令に服従するなりてふ條件に伴ふ。主は己れの弟子に對ひて萬國の民を弟子となせと命じ給ふ。此命令たるや單り使徒にのみ與へたるにあらずして凡ての時代に生存する基督教會の各員に與へたまへるものなり。

若し我等往かんか基督は世の末までも我等と偕に在すなり、されど我等若し往かざれば我等は彼の命令に倚賴する權利を有せざる者なり。諸君往かんとする乎。如何にせば我等往き得る乎。我等が往き得るの方法に三あり、而して(我等若し世の末まで毎日耶蘇基督の個人的命令の不思議なる特權を悦ぶならんには)我等は少くとも是等の方法の二つによりて往かざる可からず

一、第一我等の多數者は身自から往き得る也。我等の多數者は往かざる可からず。神は何人にも外國宣教師として往くべしとて召し給はず、されど神は召に應せざる人々を往かしめんとて召し給ふ也。基督者は何人に限らず外國の境土に赴かん爲め神に其身を獻げざる可からず、然れど己れを撰擇するの責任は全能者即ち神に委ぬべし。如何なる基督者と雖も己れ自ら進んで外國境土に到らんが爲めに神

に献げざれば内地にとゞまるの權利なき者とす。若し諸君曾つて之を爲さざれば、今日之を爲すべし。單獨以て神に往き斯く祈るべし。天に在す父よ、基督の寶貴き血によりて贖はれたる汝のものなる僕こゝにあり。僕は汝に屬けるものなり。汝若し外國傳道の爲めに此身を召し給ふなれば、願くば之を僕に明かに示し給へ、されば僕往くべし」と。而して神の誘導を俟望むべし、神の導は眞に明なるものなり。彼は光なり、彼にありて少しも暗き處あるなし(壹約二)。若し諸君にして眞に導かれんと意なれば、神は之を日の如く明かに示し給ふべし。神之れを日の如く明かに示し給ふまでは、病むが如き憂慮の必要なし、蓋し諸君恐くは諸君が外國傳道に赴くべき筈なるにも關はらず、内地に停る事あれば也。神若し諸君を要し給はんか、神は必ず己れの欲する方法又時期に之を日の如く明かに爲し給ふべし、神之を明かになし給は

んか其時彼の導き給ふまゝに徐々に準備すべし。而して神の望み給ふ時到来ば、往け、何物を棄てゝも往くべし。神若し諸君身自ら往くべき事を明かに示し給はざれば、内地に停まりて汝の義務を果し而して次に告げんとする他の方法によりて往くべし。

二、我等は皆往き得るなり、而して皆我等は己れの贈物を用ひて外國傳道に往かざる可からず。幾多の人は身自ら外國傳道の爲め往かん事を望むなれど、神は攝理的に之を妨げ給ふなり、されど彼等は尙外國宣教師として往く人々を維持し、或は維持の幾分を援助し得るなり。こは外國宣教師の一人又は其地の土着傳導者を維持し、或は其維持の幾分を補助する事によりて最も遠距離にある土地に福音を宣傳する事は諸君の出来得る事なりとす。此書の讀者の多數は一外國傳道者を己れの財囊中より維持し得るならん。諸君若し成し得るならんか、

之をなすべし。諸君もし一外國宣教師を維持し得ざるも尙克く土着傳道者を維持し得べし—之を爲せよ。諸君は日本、支那、印度、亞弗利加、又は其他の國々に宣教師を送る費用を維持し得るならんか—之を爲すべし。あゝ我等の肉眼を以て未だ見ざるの國々に福音を宣傳するの喜は得て知る可からず。今日基督教會に於て福音宣傳の特權を現實し又其宣傳者に對して物質的方法の表示を以て遠國に散在する男、女、及兒童等の救済を實現になすものの如何に少數なるかを思へば誠に寒心に堪へざる次第なりとす。之を約言せば諸君の往き得ざる處に諸君に代りて往く所のものに資を贈るとの謂也。是等の人々は諸君の維持に由らざれば往く事能はず、諸君は彼等に代りて往き得ざるも、諸君に彼等は代りて往くに由りて諸君は往き得るなり。諸君は外國傳道の爲め、極めて小額を出すことを得ん、極めて些細なる幾多の流

れと雖も集りては終に大河と成るもの也。諸君若し一河たるを得ずんば少くとも一小流たり得べし

大に與ふる事を學ぶべし。大にまた潤澤に與ふる者は幸ある基督者なり。「施與を好む者は肥ゆるなり」(箴二五)。「それ少く播者は少く穫りおほく播者は多く穫べし」又「神は爾曹をして常に凡ての足らざる事なく凡の善事を多く行はしめん爲に諸ての恩を多く爾曹に賜へ得るなり」(後哥九、八)。「基督者たる生涯に於ける成功及發達は喜びて施與する事を除かば他に見るところは甚だ少なるべし。吝嗇なる基督者は進歩發展を期するクリスチャンならず。基督者が與ふる事を始むるときは發達を始めたるときなりとは實に不思議に思はるゝ位なりとす。祈禱の力は喜びて與ふる事に在り。祈禱と其答に關して最も奇しきなる解説は約翰第一書第三章二十二節にあり。約翰此所に述て

曰く「凡て神に求むる者は彼より受く」とて其何故なるかを我等に告ぐ。「それは彼己れの爲に神の誠を守りて聖前に其悦び給ふところを行へば也」と。而して其前後の關係に至りては、彼の守りたりし特別の誠は施與する事に關する誠たりし也。彼は又其二十一節に於て責ることなくば我等は祈禱に於て神に對ひて憚る所なしと告げたり。我等の祈禱に對する神の應答は我等が他人に與ふるところと同じ門戸を過ぎて來るものなり、而して我等のある者は其門戸を甚だ狭小になし極めて少小なるものを與ふ、故に神は我等の祈禱に對して大なる應答を以てしては其門戸を通過する事能はざる也。聖書中にて最も著しき約束の一は腓立比書第四章十九節に於て見ゆる、それわが神は己れの富に従ひて基督耶穌により榮光を以て爾曹の乏しきところを補ひ給ふべし(改譯にては満す、即ち)。然れども此約束は潤澤に且つ屢々施與ふるべし(充分に満すとせり)。

ところの信徒にのみ與へられたるものなり(腓立比書第四章十四節より、十八節に至るまでを参照す)。勿論我等は己れの與ふるものをして唯外國傳道にのみ限る勿れ。我等は内地に散在する教會の事業の爲めにも與へざる可からず。又我等の住する大都會に行はるゝ救濟事業の爲めにも與へざる可からず。我等は機會ある毎に萬人に對して善を行ひ、信仰の徒輩には別けて之を行はざる可からず(加六ノ)。然れども外國傳道に對しては我等の施ふる大部分を與へざる可からず。規則的に與ふべし。諸君が得る金錢または物品のある一定の部分を基督の爲めに取り置くべし。之に關して精細に且つ正直なるべし。如何なる事情ありとも己れの爲めには此目的の爲めに取置きたる分は決して使用する可からず。基督者は律法の下にあらず、故に必ず收入の什一を與へざる可からずと言ふが如き事を以て基督者を束縛す

る法はあらず、されども己れの撰ぶところに任かし且つ感謝の意を示す事として其十分の一は始めて行ふべき好適なる分となす。十分の一より少なく爲す可からず。神は猶太人に對して之を要求し給へり、然らば基督者は猶太人よりも更に貪慾なりとす。諸君が所得の十分の一を與へたる後に諸君は直ちに此の什一に加ふるに更に又悦んで献ぐるに至るべきを見て喜ぶならん

三、茲に又外國傳道に往き得る他の方法あり、即ち祈禱これなり。我等は悉く皆之の方法によりて往き得るなり。日となく又夜となく何れの時なりとも、諸君は祈禱によりて地の極にまでも到り得るなり。余は日本に支那にオーストラリヤにタスマニヤにニュージーランドに、印度に亞弗利加に將又地の凡ての所に毎日祈禱によりて往く。而して祈禱は眞に諸君が往くところを通じて或ものをもたらし來るな

り。祈禱によりて神若し望み給はゞ諸君が身自ら往かざるところをも見逃す勿れ、而して些少の施與を以て祈禱の責を逃るゝ勿れ。斯の如く祈禱の力に比すべきものは他にあらざるなり。諸君若し神の望み給ふによりて身自ら往くの準備あり且つ諸君若し神より能力を賜りて己れの施物を以て眞實に往かんとせば、其時諸君は又祈禱によりて満足に往き得る也。今日耶蘇基督の事業に就きて最も緊要なるものは祈禱なりとす

今日外國傳道に關して最も必要なるものは祈禱なり。外國傳道は今や成功の域に進めり、然れども當然有り得べき筈の成功には未だ容易に至らざる也。若し内地にある基督者(勿論外國に)にして祈禱に存するが如き此好機を利用する事に敏捷なるにあらずんば此外國傳道は當然隆盛の域にあるべき筈の成功を見ざるべ

諸君祈るとき外國傳道のために一定の祈禱をなすべし。最初に神が其收稼場に適當なる工人を送らん事を祈るべし。外國傳道に赴かざるもよき男子女子の甚だ多く往くあり。之に就きても祈禱の充分ならざる事を示すなり。現に在るものよりも更に多くの外國宣教師の必要ありと雖も適當なる宣教師にあらざれば其必要を充す能はざる也。工人を收稼場に送らん事を日々信じて神に祈るべし。

既に外國傳道地にある宣教師の爲めに祈るべし。我等の祈禱の必要なる事を感ずるの人―男女―は外國傳道者を措きて他にあらざるべし。サタンの反抗によりて困しむ男女は外國傳道者を措きて他にあらざるべし。基督と眞理との爲め戦闘に参加する勇敢なる男女の名譽及品性を攻撃する事を喜ぶはサタンの常なり。斯の如き詭計に富み、怖しき誘惑に多く遭遇するの人は外國宣教師を措きて他にあら

ざるべし。我等は祈禱を以て彼等を維持するに負ふところあり。單に外國宣教師全般の爲めに祈る勿れ。諸君が熱心に祈り得る爲め、諸君が其人の事業を研究し居る小數の宣教師の爲に祈るべし。

土着信徒の爲めに祈るべし。内地に在る我等基督者は己れ困難、試練、誘惑及迫害に遭遇すと思へり、然れど我等の負ふ重荷と雖も異教國にある信徒の負ふ重荷に比すれば誠に輕少なるものとす。屢々起る妨碍は實に法外に且つ強壓する如き失望を與ふるなり。基督のみ彼等を安全になし得るなり、而かも神の民の祈禱の内に働きて答ふるなり。屢々祈り、熱實に祈るべし、熱心に信じて土着信徒の爲めに祈るべし。神は土着信徒の爲めに爲す祈禱に對しては如何にも奇しむに堪へざる程に答へ給へし事は我等が外國傳道書類より學ぶ所なりとす。こゝに又再確定するの要あり、即ち祈禱の必要を感ずる人は何人なる

乎を諸君が報告せられたる者の爲め又其他にある悔改者の爲めに祈ることを定むるは極めて宣き事なりとす。多くの人を指す勿れ、蓋し煩雜し且つ機械的に流るれば也。外國にある人々の悔改せん事を祈るべし。或る一定の所にレヴァイウアルの起らんことを祈るべし。過去數年間は外國に於て特別のレヴァイウアルの起らんことを特に祈るべき年なりき、而して地の極々より如何にも不思議なるほどに神は之等の祈禱に答へ給へつゝありとの音れの來るあり。されど神の成し給はんとて開始め給ふ大なる事と雖も、若し更に多く祈る者あらんとき神の自ら成し給はんとする事に比ぶれば實に些微なる事なりとす

第十二章 交友

我等の有する朋友の如何によりて我等の品性を定むるに大なる關係を有する事を思はざる可からず、我等が構成する友誼の如何は我等が斷へず呼吸し居るところの智識的、道義的并心靈的空氣を創成す、而して我等の心靈的健康は之に由りて助長せられ或は阻害せらるゝ也。未だ經驗少なき基督者は須らく精撰したる小數の友を有せざる可からず、而して是等の人は己れと自由自在に何事も吐露し得る親友たらざる可からず。諸君は己れと同年輩位にて親しく交際し得る小數の友を求むべし、しかも其友たるや必ず最善の意味に於て靈的人物ならざる可からず。聖書研究を愛し、靈的問題を語るを喜び、如何に祈り又祈禱を實行するを知り、他人を基督に導き來る爲めに眞に働く底の人

物ならざる可からず

或種の基督者は諸君にとりて他の種の者よりも一層好く一致し得るてふ事實に就きては全く懸念する勿れ。神は斯く我等を創造り給ひし也。或人は或者を好み、又或者は他の者を好むとも、そは諸君が或人々に愛せらるゝが如くに他の人に愛せられずとも、其人にとりても又己れにとりても別に差悶となるの理由あるなし。諸君の靈的生命を助長するに適當なりと思ふ友誼、友情を涵養すべし。

又一方に於て諸君が靈的并に道德的危害を蒙むると思ふ友を避くべし。勿論我等は全然未信徒或は悪人の仲間より離れて退く可からず。我等は精神的ならざる人々と雖も知己となす事を屢々養ふべし。例之、最悪の人なりとも基督の爲めに彼に勝ち得んが爲めなれば也。雖然我等は如此人を友とすることを常に用慎し且つ彼等と高尚に爲

さん事を求めて意に留むるを要す、然らざれば彼等は諸君を下劣に導くや必せり。若し諸君が全心全力を盡して其友の爲めに圖るにもかゝらず、彼が諸君の靈的生命に危害を及ぼさんとせば、其時こそは、彼を見棄つるとも、又止を得ざる也。或人は不信仰、扁屈、批難、不潔、貪慾、又は其他の罪に満ちたるの空氣を以て圍繞せられ居るなり。如此はたとへ辱しめらるゝ事なくとも、如何にも是等の人々と共には親交する事の不可能なるを思はざる可からず。斯の如き場合に於て賢き唯一の智慧の途は明白なり、即ち其交の如何に廣くなるとも止まりて、彼等と共に交際せよ。彼等と共に構はず止まりて、彼等を補助誘掖するの見込を以て大に期待すべし。

雖然生氣ある人々と交際する以外に、尙ほ我等の生命を形成する友あり。書籍即ち之なり。我等が友として愛讀するところの書物是な

り。是等は其善惡の如何に拘はらず、恐るべき感化を我等に與るもの也。善良なる書を除きて他に我等を助益するものあるなし。而して又不良なる書ほど、我等に危害を與ふるもの又あるなし。最も有益なる書籍の中にありて良きものは善良なる人物の傳記書類なりとす。ウェースレー、フィンチ、及ムーデーの如き善良且つ眞に偉大なる人物の傳記を閱讀すべし而して屢々之を通讀すべし。我等は今や善良なる偉人傳の多數に刊行せる時代に遇ふ故に是等を読むべし。善良なる歴史等も又善き友たるなり。歴史研究を措きて他に實際的且つ教訓的の良書あるなし、而して我等若し個人を論せず又國家を論せず正義の勝利の明白にして、不義の刑罰の明確なるを見ん爲め歴史中に現はれたる神の攝理を注意して學ばんか當に教訓的なるのみならず亦精神的に有益なるものなり

或少數の小説類も有益なり、然れども之を読む人は大に注意するを要す。近來小説の最大部分は確かに道德的危険且つ害毒なるものとす。確かに害ならざる小説類と雖も少くとも人生に關して誤りたる見解を與へ又事實として存在する人生を不適當の者となす也。小説を多く讀むてふ事は精神的に有害なり。烈しく小説を讀む者は自己の稠密なる精力及明晰なる思考力を失ふに至るなり。更に又小説は精神的及道德的有益なる他の書籍を排斥して讀ましめざるの傾向を有さしむるほどに人の精神を奪ふものなり。我等はたとへ善良なる文學を通讀する時なりとも注意する事を要す、そは善きものたりとも最善なるものに及ばざれば也。約言すれば、人の手になりたる最良の文學と雖も諸ての中、極めて最良なる神の書に及ばざれば也。神の書即ち聖書を常に第一のものとして持たざる可からず

茲に又我等の生活上に非常なる感化を及ぼす友あり、繪畫即ち是なり。我等の生活に於て日々眺望する繪或唯折々見るところの畫と雖も我等の生命を構成するに非常なる感化を及ぼすもの也。一母あり、彼女は己れの二人の息子を限りなく愛し居たり。彼女は此二子を將來は傳道者となさんものと夢に想ふ程希望み居たりき。然るに兩人揃も揃ふて航海者となり。彼の婦人は此事に就きて少しも了解し能はざりしが、或日一人の友の訪れ來りて其家の食堂にある暖爐棚の上段に懸りある一額面―洋上遙かに萬帆に風を盈して疾走し居る如何にも莊嚴しき船の圖―を指して彼女の注意を促すに至れり。如此此時までは己れの二兒の航海者となりたる事を悟らざりし也。此の二兒は己れの家にある日は一日たりとも其繪畫を見ざる事なきを以て之に心奪はれて海を愛するの念愈強く之に打勝つ能はず且つ慕ふ

の餘り其心形成せられ終に海に往かんと決心するに至りしなり。世に傑作と稱せらるゝ幾多の繪畫中には又善良ならざる諷示を與ふるものありて或る青年を藉つて墮落の街に迷はすに至るなり。我美術館の多くは青年男女をして之を觀覽せしむるの甚だ危険に且つ汚れたる不適當の繪畫を陳列しあるなり唯寸刻なりとも之等によりて與へられたる悪しき想念はサタンの誘惑によりて屢々之を思返さしめ以て其心を害ふに至るなり。諸君の想像を益々悪しき智慧を以て彩色するが如き繪畫は例令美術批評家によりて賞讃せらるゝ者なりとも見る事なかれ。諸君に害毒を與ふるが如き繪畫或は彫刻腐蝕圖及び寫眞等諸君の心に汚點を残すが如きものを避け却つて諸君を聖く親切に同情に、又温良に進ましむる繪畫を以て諸君の靈魂を養ふ可し

第十三章 遊 樂

青年は休養を要す。我等の救主さへも有益なる休養に對して非難し又は譴責し給はざりき。主の此世に在し給ひしとき、兒童等の爲す遊戯等にも趣味を有し居り給ひき。彼は遊戯最中の兒童等を注目し(太一三ノ二)居たり又今日と雖も尙兒童の遊戯に注目し給ふ、而して亦其遊戯にして有益且つ高尚なるものならんには喜び給ふなり。近時世活の繁劇過勞の時に當りては老成の人と雖も、若し彼等にして眞に己れの事業を成すに全力を盡すならんには亦休養を要するや其切なるを感ずる也。雖然茲に有益なる遊樂と有害なる遊樂とあり。今之を一々掲ぐる能はず又其要を認めざるとも、唯其主要なる數點を掲げて茲に記述すべし

一、如何なる遊樂たりとも若し其人にとりて適當なりや否やとの疑惑を起さしむる如きものは爲す事勿れ。諸君疑ふことあらんか、常に此疑惑に勝利を與へて、神に委ぬるに如かず。疑惑を起さしめざる遊樂は、其數甚だ夥し疑ふ者は罪に定めらる、蓋は信仰に由りて爲さる者は罪なればなり(改羅一四一三)、多數の青年信徒は、此遊樂は惡しきものなるや否やを知らずと言ふべし。諸君其義しきを知る乎、若し然らずば、爲さるるに如かざるなり

二、如何なる遊樂たりとも神の榮光を顯し得ざるものは爲す事勿れ。「されば爾曹食ふにも飲むにも何事を行ふにも凡て神の榮光を顯はすように行ふべし」(前哥一〇)。諸君が或る遊戯をなさんとするとき、若し之に對して疑惑を生ずるあらんか、自問せよ、余は今之を行ふによりて神の榮光を顯はし得るやと

三、如何なる遊樂たりとも人々に對して諸君の感化を害ひ失ふが如き事を爲す勿れ。茲に自身にとりては差悶なき遊樂ありと雖も之を行へば、或人に對して我等の感化力を殺ぐ憂あるものあり。眞正の基督者は自己の生涯をして全く人々に其眞理を語らんことを願望ふなり。基督者は己れの各人に對して有する幸福の爲めに最終の力を願望みて多く成さざる可からざるに成すもの、少々なるを如何せん、而して如何なる遊樂たりとも若し人々の幸福のために諸君の感化力を害ふ事あらんか、是は非常に高價なるものとなるべし。斯の如き遊樂を爲す勿れ。或る年若き婦人ありたり、彼女は基督者なるの故を以て他人を基督に導かんものとの非常なる希望を有し居りたり。彼女は先づ己れの朋友たる一青年に向つて、基督に到るべき事に就きて語たらんものと決心なしたり。斯くて舞踏の爲め裝飾中、休息の間に彼

女は自分の同僚なる青年に向ひて曰く「ジョージさん、貴方はクリスチヤンですか」と、彼曰く「否」とよ。私は信徒ではありませんが、貴嬢は……」嬢曰く「然です」と、然らば貴嬢は此所で何をして居られますか」と。正當なるか、不正なるかを論せず、現世的なる遊樂に放恣し執着する基督者の如き自認に對しては世と雖も擯斥せざるを得ず。我等は斯くも賤められたる職業を有する事を喜ばざるなり

四、如何なる遊樂たりしも諸君が祈禱を以て成し得ざるもの即ち神の恩を乞ひ得ざるものは爲す事勿れ。諸君が仕事を開始するに當りて祈るが如く、諸君が遊樂を始むるに際ししてもまた、祈るべきなり

五、諸君が基督と共に往き得ざる遊樂の場所及基督に不決を感せしむるが如き場所には如何なる所なりとも行く可からず、基督在世に當りては歡喜溢るゝの場所に赴き給へり、カナに於ける婚禮の席に列

し給ひたり(三約)而して此場合に適當せる喜びに對して寄與する處ありたり、然れど近時歡樂の場所として基督を喜ばしむるに足るべき所は誠に少し。我等が主と呼びまつる此聖者にとりては近時の戲遊場の空氣は眞に忌むべき傳染的ならざるなき乎。若し然らば諸君往くを止めよ

六、如何なる遊樂たりとも諸君もし基督の來り給ふとき見らるゝを好まざるものは、之を爲すこと勿れ。主は何時來り給ふか我等の知る處にあらず、彼到らんとし、目を醒まして備へ、喜び直ちに啓きて彼を接くる者は福なり。(三六四〇)。余は一人の友を有す。彼は或日道路を歩行中、主の再臨に就きて思考し居りたり、彼考へ居りたる時、己れの口に葉卷煙草を喫し居りたり。其時基督來り給ふとき汝は煙草を口にして面會するを欲ふ乎との考の浮び來れり、彼正直に「否」とよ、我は欲

ます」と答へ直ちに其煙草を放棄して以來決して用ひざりき

七、自身にとりては如何に無害なりとも、他人を害ふが如き遊樂を爲す事勿れ。例之ば、骨牌遊びの如きものは是也。數千の人は骨牌遊をなし、之に由りて直接に道德的危害を蒙りたることあらざるは眞なるべし。然れども、何人たりとも此遊戯の如何なる性質のものなるかを研究したる人は、骨牌が賭博者の唯一の道具なる事を知るに至るべし。彼は又大多數(若し全體ならずとせば)の賭徒が最初に學びたることは其閑靜なる家庭にありて骨牌遊びをなしたるに基因する事を知るに至らん。彼は又、若し青年が骨牌の使用法を知りて世に出で加之己れは遠からず金錢の爲めに骨牌遊びを爲さんことを勧めらるゝの場所に往きて全く此娛樂に沈るに至る事を知るならん、而して彼若し之に首肯せざれば己れは危險なる苦難に遭遇するに至らん。骨牌遊は普

通一般の青年にとりては誠に危険なる遊戯なりとす。是は盛に或は内々に賭博に導く事は確なる事實なりとす。現時最も怖る可き社交的罪惡の一は賭博なり。或青年は諸君が骨牌遊びを爲すによりて力を得、後には一個の純然たる博徒となりて其責任の一部は諸君が其門戸を開きたるに基因する事なりとも計られざる也。余若し再言し得るならんには、凡て余の耳に入る中の憂心に充てる青年に關する話柄は其生涯をして全く賭博の海に難船したる事にあり、而して余若し心に憂ひて余に來る母なる人の其中(高貴なる地位を有するもあり)に話し得べくんば、彼等の愛する子が骨牌遊びの結果墮落してモンテガロ^ロ其他の場所に於て自殺を遂げたるの事なりとす。余は凡て思慮ある眞正の基督者は永遠に全く此遊戯を放棄せんことを望むなり

我等多數者の爲めに最も有益なる休養を肉體上著しき勢力の費用

を要求するものならざる可からず。野外に出で、なすべき遊樂ならざる可からず。氣力を養ふに足るべき種類の肉體的運動は勿論過勞を意味せず(兒童及青年の道德的行爲に關して大に安全なるものゝなりとす。他人の行ふフットボールの如き健康に適する遊戯を傍觀するが如き有益ならざる休養あり、然れども諸君自ら適當に運動するときは身體及び靈性にとりて眞正の健康を得る事を忘る可からず

第十四章 迫害

基督者の風習慣例に全く熟せざる真正の基督に失望なさしむるもの、一は迫害なりとす。神は其聖語の内に「凡て基督耶穌にありて神を敬ひつゝ、世を涉らんと志すものは窘を受くべし」(後提三)と告げ給ふ。全く神に服し耶穌基督に従はんと願望ふ者は早晚何事につけても此の語の眞なるを知るに至るべし。吾人は今や神に誑はるべき世にまた危険なる時代に生存す。現今にありて神を憎むの世は假面し居るなり。其我邦に於て現はるゝものと、耶穌基督の時代にありて、パレスチナに於て現はれたりし者と其方法に差異あり、然れども現の世の神を憎惡する點にありては、其昔日と其今日と雖も差したる相異を見ざる也。而して基督に忠實なる者を憎惡する事も亦異ならざる也。人

を獄窓に投じ或は殺害せざるも或方法を用ひて迫害するは事實なり。耶穌基督に忠節を盡すものに對する迫害は顯著なるもの也。幾多經驗に乏しき基督者は己れ迫害に遇ふとき狼狽失望して墮落するもの誠に少しとせず。或者は數日克く之に堪へ逃るゝあるも、斯の如き人に對して耶穌の告げ給ふを聞くべし、曰く「然れども己に根なきが故に唯暫時のみ、後ち道の爲に患難或は迫害に遇ふときは、忽ち礙く者なり」(太七四)。余は明かに誓約なしたる基督者の生涯が斯の如き終局を遂げたるを多く見たり。然れど若し迫害と雖も正當に受る事あらんか、之れ最早基督者の生涯に於ては何等の障害たらず却つて有益のものたる也。諸君迫害を受けたりとて失心する勿れ。其迫害にして如何程嚴酷難艱なりとも之が爲に感謝すべし。耶穌は「義しきことの爲めに責めらるゝ者は福なり、天國は即ち其人のもなれば也、我がために人

なんぢらを誦辞りまた迫害めいつはりてさまざまなる悪言をいはん、其時は汝等福なり喜び樂め天に於て汝等の報賞多ければ也、そは汝等より前の預言者をも如此責めたりき(太五ノ三)と宣ひ給ふ。基督のため又真理の爲めに迫害を受くるとは、これ大なる特權ならずや。ペテロは之を發見して當年の基督者に書を贈るに到れり、即ち彼曰く「愛する者よ汝等を試むる火の如き苦を非常なる事の如くして汝等奇異の事と爲す勿れ。卻て基督の苦に與かるを以て歡樂とすべし、然れば其榮光の顯はれん時また汝等喜び躍らん。若し汝等基督の名の爲に謗られなば福なり、蓋は榮光の靈すなはち神の靈、汝の上に止れば也。基督は彼等に讒され汝等に崇めらるゝ也」(前彼四ノ二、二一—四)。諸君自ら有する偏癢又は己れ頑固なるの故を以てするなく、眞に基督の爲めに受る迫害は極めて確實なるべき事を思はざる可からず。或は自己の頑迷偏

曲にして且つ諂ふの故に由りて他人の喜ばざる事を引起すに至る事多し、而して彼等は基督のため、また正義の爲め迫害を受くるものなりとせり。他人の意見及行爲に關しては極めて謹慎なるべきを要す。諸君の意見を主張せんとして辯解し難き方法を探る事勿れ。他人に對しては諸君の良心を生涯の規矩繩墨と爲すべし。然れども其主義に於ては一步たりとも譲る勿れ。諸君が眞理と信する處には毅然として起つべし。愛に由りて之を行ひ、其價の如何を願すして之を爲すべし。而して若し諸君にして自認と主義との爲に起つて反抗するが如き場合に臨みて、諸君は之が爲に嫌惡せらるべし、之がために誣らるべし、之がために有ゆる不親切なる行爲を以て待遇せらるべし、其時悲むが如き事なく卻つて悦ぶべし。諸君を悪口する人々に對して決して悪口する事勿れ、汝等の召されたるは之が爲なり、蓋は基督汝等の爲

めに苦を受け汝等をして己れの跡に隨はしめんとて式を汝等に遣し給へば也。彼詬られて詬らす苦しめられて厲しき言を出さず、只義を以て鞠き給ふ者に之を託ね給へり(前彼二三)

多數の基督者は此點に於て誤まる者少からず。彼等は眞理の爲め忠實に立つと雖も、しかも彼等は眞理の爲めに來たる激烈なる迫害を受けて益々苦痛を感じ終には己れ以外の人々を凡て鞠くに至るなり。斯の如き方法によりてはたとへ迫害を受くるとも恩恵を受く事なし。迫害を受容せんとせば、温順靜かに愛を以て受くべきなり。自ら受くる迫害に就きては語る勿れ、しかも之を悦ぶべし。之等を神に感謝し而して神に従ひて歩むべし。諸君を迫害する人々を愛し且つ彼等の爲に祈る事を忘る勿れ(太五ノ四四)

若し何時たりとも、其迫害にして諸君の負ふ能はざる程の苦痛を感

ずるとき、其報酬の益々多大なる事を思ふべし、我等若し忍はば彼と共に王と爲るべし、われら若し彼を知らずと言はば彼も又我等を知らずと言はん(後提二三)。各自は艱難辛酸を歴て後ち神の國に入らざる可からず(徒二四)、然れども之に由りて退歩する勿れ。常に迫害の火焰如何に烈しくあるとも、今の時の苦は我等に顯はれん榮に比ぶべきに非ざる事を(羅八ノ)記憶すべし。又諸君の受くる輕微なる難は唯寸刻の間なる事と此苦は諸君の爲に極めて大なる窮なき重き榮なる事を記憶すべし。眼に觸るゝところのものならず、唯見へざる處のものを望みて待つべし、蓋し見ゆるところは暫時にして、見へざるものは永遠なれば也(後哥四)。使徒の囹圄の身となり、又鞭撻せらるゝの迫害を受けたるとき、また彼等が怖しき宣告を受けたるところの議員の前を、耶蘇の爲に辱を受くるに足る者とせられたる事を喜びて立ち去りたり。

而して彼等は日々殿および人々の家に於て教をなし耶蘇基督の福音を傳へて止まざりき(徒一四ノ四)

諸君は自ら他人よりも更に多くの迫害を受け居る事を思ふとき到らん、されど諸君は他人が如何に忍び居るかを知らざるべし。若し此事即ち諸君は他人よりも更に多くの迫害を蒙り居る事を眞なりとするも、諸君は訴ふる事なくして唯謙遜に神が諸君に此名譽を與へ給ひし事を感謝せざる可からず。諸君は注意して「耶蘇即ち信仰の先導者となりて之を完成するを望むべし、彼は其前に置くところの喜悅に因りてその耻をも厭はず十字架を忍びて神の寶座の右に座しぬ。なんじら倦疲れて心を失ふこと莫らん爲に悪人の斯く己れに逆ひしをも恐びたる者を思ふべし(來一三)。余は或時他人の奴隸たりしとき救主を知りたる一人の黒人と相談ひつゝありたり。彼の主人は彼が基督

に忠實なるの故を以て幾度となく彼に鞭撻を加へたり、されど彼は余に告げて曰く「余は單純に、余れに代りて十字架に死せしむが救主の事を思ひたり、而して我は彼の爲め迫害の苦を蒙る事を喜びたり」と

第十五章 啓導

余は基督者たる生涯を送らんとして此啓導てふ問題を以て大に艱む多數の人々に出會せり。彼等は萬事に於て神の聖意を行はんと願望ふなれども、彼等を迷はすところのものは如何なる場合にも神の意志が存在し得んと告ぐるにあり。或人、萬事に於て神に従はんと決心を有す而して聖靈によりて導かれんとて、事を始めんとするとき、サタンは神の意志とは如何なるものなる乎との如き問題を呈して彼を迷はさんと求むるなり。サタン來りて全く神の意志ならざるものを、神の意志なりと稱して教ゆるなり、然れど彼の之を成さざるを見れば、サタンは、汝は神に従はずと言ふ、斯の如き方法によりて、多數の善良なる幼き基督者は己れの神に従はざる事と、其恩寵を失ふ事とを恐れて、甚

だ不幸なる精神の状態となるなり。是は悪魔が基督者を其愉快なる心情より遠ざげんとする最も度々ある悪行の一なりとす

如何にせば我等は神の意志を知り得る乎。

先づ余をして眞正の基督者たる生涯は、人たるものは何を食ふべきか、何を飲むべきか、また何を爲すべきか、將又何を爲すべからざる乎に關しては規則一點張の筆法によりて司配さるべきものならざること、を告げしめよ。規矩繩墨によりて支配さるる生涯はこれ束縛の生涯なり。人は早晚斯の如き人爲的規則を破壊し而して所罰を受くるは必然の事となす。ポーロは羅馬書第八章十五節に於て左の如き語を以てす、曰く「汝等が受けし靈は奴たる者の如く復び權を懷く靈にあらず、アバ父と呼ぶ子たる者(我等を子となして)の靈なり」と。眞正の基督者の生涯は信任歡喜、臆するなき兒たるもの、生涯たるなり、定規に束縛せられ

すして我等に内住し給ふ聖靈の人格によりて啓導せられざる可からず。「凡そ神の靈に導かるゝ者は之れすなはち神の子なり」(四羅八ノ一) 諸君若し聖靈を受けたらんか聖靈は諸君に内住して諸君の生涯の轉機に際して諸君を導き給ふなり。煩雜極まる規則の司配を受くる生涯はこれ束縛煩累の生涯なり。聖靈の司配の下に服従する生涯はこれ喜悅平和また自由の生涯なりとす。斯の如き生涯に煩累あるなし。此生涯には神の聖前に在るも恐怖あることなし。眞の小兒が其父を信じて其面前にあるを善ぶが如くに我等も神を信じて其聖前にあるを悦ぶ可きなり。我等若し誤謬を發見するともよしや我等神に不従順の事ありとするとも我等は之に關する萬事を小兒の如く信じて神に往きて告げ而して神の己れを赦し給ふことを知り又吾人は直ちに神の満ち溢るゝ恩惠によりて償はるゝなり(壹約二)。雖然我等は如何

にせば我等聖靈に従はん爲めに其啓導を認め而して如此して生涯の各轉機に於て神の恩寵を有し得る乎。此問題は(譯改)雅各書第一章五節より七節に至る處にて答へられあり即ち稱曹の中若し智慧足らざるものあらば夫の答ることなく惜むことなくして衆人に予ふる神に求めよさらば予へられん然れど疑ふことなく信じて之を求むべし蓋は疑ふ者は風に憾かされて翻へる海浪の如し斯の如き人は主より何をも受くると想ふ勿れ」と。これ極めて單純なり茲に其含める五點を掲ぐべし

- (一) 諸君は自己の生涯を送るには己れの無識無能即ち智慧の足らざる事を認識すべし
- (二) 諸君の意志を神に服従すべし且つ神によりて導かれん事を眞に希望すべし

(三) 神の啓導を仰がん爲めに祈禱すべし
 (四) 神は諸君を誘導し給ふ事を信じて期待すべし。諸君は疑ふことなく信じて求むべし」

(五) 諸君は神の誘導し給ふまにまに歩一歩従ふべし。神は時期の到來するとき唯諸君に其機を示し給ふべし。之を以て満足すべし。今諸君が要する者は次の機會なりとす。此時誤つ者多し。彼等は其第一機を得ざるにも拘らず己れ全機を知らんと欲して神に願望ふなり。一大學生或時余の許に來りて啓導に關する問を爲せり彼曰く「余は神の意志を發見し得ざる也。余は祈ること久しされど神は其意志を余に示し給はざる也」と。これ七月中に起こりたる事なりとす。余は彼に告げて「足下が求めて神の意志を知らんと望むものは何に關する事なるや」と曰へり。「余は來夏何を成すべきかに就きて也」。余はま

た言へり「足下は明日爲さざる可からざるものを知るや」然り「足下此秋爲さざる可からざるものを知るや」然り余は課程を卒へ業を終る。然れど余の知らんと望むものは、余が大學卒業の上は何を爲さざるべき乎にあり」と言へり、彼は、現在知らざる可からざることは、神既に彼に表示し給ひたりてふ事を知りたるを以て直ちに導かるゝに至れり。彼其事を成したらんには神は直に爲すべきものを示し給ふべし。諸君は次週になすべき事を慮ふる勿れ。神が今日成すべきものを諸君に示し給ふ事を行ふべし。次週の事は其儘に任かするを宣とす。眞に明日の事は明日成すに如かず。今日神の靈に順ふべし。「是故に明日の事を憂慮ふなかれ、明日は明日の事を思わづらへ、一日の苦勞は一日にて足れり」(改譯太六)。我等苦し其日我等の爲すべき業に全力を盡さば、一日の生涯は足れりとせざる可からず

神の啓導は明白なり、神は光なり、彼に少しも暗き處あるなし」(一五約二) 曖昧模糊の導によりて憂慮すること勿れ。諸君の靈を「恐らくは此の不明の誘導こそ神の余に爲し給はんと望み給ふものなり」との思想を以て攪亂す勿れ。明かならぬ導はこれ神の誘導ならず、神の途は日の如く鮮明なり。サタンの途は不明、不確定また憂慮と疑惑とに満つるなり。若し之は神の意志なるや否や、全く正確ならざる或る誘導に遇はんか其時諸君は單に天父に往きて「天に在す父よ、余は汝の聖旨を知らん願望ふ、汝苦し之を余に明らかに示し給は、余は聖旨を爲さんと願望ふなり。汝は光にして汝の中に少しも暗き處あるなし、此事の若し汝の聖意ならば日の如く明かになし給へ、さらば余れ之を爲さんと祈るべし。而して神の聖前に靜かに待ち居りて、神の之を明らかに成し給ふまでは、之を行ふ勿れ、されど之を明かに示し給は、直ちに之を

行ふ可し

完全き啓導の秘訣は絶對的服従の意に存す、神に委したる意志なり。而して其價の如何を問はずして神に従ふ準備を要す。神の啓導に關して我等の多く不確定なるは單に我等は神が眞に我等になさしめんとて導き給ふものを成さざるに基因するなり。我等は誘はれて「余は神の聖旨の何たるを發見し得ざる也」と言ひ、眞正の困難に遇ふとき我等は神の意志を發見したりとなし、而して其事の我等成すを望まざるものなりせば、我等は神は此外に或事を成さしめんとて我等を要し給ふなりと自ら思ふに至るなり

神に關はる凡ての假定せる導は神の道を以て試験せざる可からず。聖書は神の聖意の啓示なり。聖書の明かなる教に矛盾する處の誘導は確かに聖靈の啓導するところのものにあらず、聖靈は自ら矛盾する

ことなし。或時一人の男の余の許に來りて、神は或婦人と結婚なさしめんとて己れを導き居るなりと告げたり。彼の曰く、彼の女は甚だ熱心なる基督者なる婦人なり、自分等は相互に非常に愛着し居り又神は自分等を結婚なさしめんとて導き居り給ふを感せりと。余は此男に言ひたり「足下は既に妻を有す」と然り、されど我等は不幸なる生涯を送りたり、われらは數年間偕に同棲せざりき」と曰へり。余は答へて「然れども、是は此場合に應用し得ず、神は其道ことばに於て、夫たるもの、妻に對して盡すべき義務を明らかに語り給へり而して神の前にて其妻を離別し他の婦人を娶るは夫たる者として極めて悪しきことなるをも明かに告げ給ふなり」と曰へり。夫の男の曰く「然り、されど聖靈は相互の者を導き給ふ」と。余は憤怒を以て「たとへ靈が相互を結婚なさしめんとて、足下を導くとも夫は確かに聖靈にあらずして、惡の靈なり。聖靈は

何人をも神の道に不從順たらしめんとて導き給はざる也」と答へたり。聖靈の啓導を知らんと求めば常に聖書を探ね祈禱を以て充分研究せざる可からず。決して聖書を魔術の如き書として用ゆべからず。神の聖旨を知らんとて妄りに聖書を開き指を其句に置きて其前後の關係をも見ずして、其眞意味の關係をとり、または此の方法によりて神の聖旨を決定せん事を求むる勿れ。これ實に聖書を使用するに當りて不敬虔且つ不適當の事とす。諸君は正しき啓導を仰がんとて正しき所を開き得ん然れども諸君若しなさばこは想像的の解釋にして諸君が發見せんする句にはあらざる可し。こは其前後の關係にある句をとりて之に解釋を與へ、此句の説明する處を直ちに、その關係に於て見たるものとして現はさんとするなり。多くの不幸は斯の如き偏癖なる方法によりて聖書を使用するより起るものなりと。余は一人の

基督者なる婦人が或時一人の僞豫言者によりて、シカゴの或る一定の日に破壊滅亡すべきを預言したることを稍懸念し居りたるを知る。彼女は妄に己れの聖書を開きたり。其時エゼキエル書第十二章を開きたるを見たり、即ち人の子よ汝震ひて食物を食ひ、戦慄と、恐懼とを以て水を飲め、……而して人の住める邑々は荒はて國は滅亡ぶべし(結二二)。こはこれ明らかに其場合に適合するものなり、故に其婦人は非常に感じたり。然れども若し此句の關係を精細に研究したらんには、直ちに神がシカゴに關して語り給へるに即ず、且又之等はシカゴの事に應用し能はざることを明らかにするを得る也。是は實に神の道を熱實に研究したるものとは言難し、故に斯の如き誤謬の結論を見るに至るなり

之を要するに、規矩繩墨に因らずして聖靈の人格によりて啓導を受

くる生涯を送らざる可からず。諸君の意志を絶對的に神に服従すべし。聖靈の啓導する處に疑惑起らば、神の許に到りて其聖意の在る處を知らんため願望ふべし、面して之を爲し給ふを期待して其導き給ふ儘に歩一步従ふべし。凡て誘導せらるゝ一の聖書の教に照して吟味するを要す。憂慮煩累より逃れて生活すべし、恐らくは諸君が正しき事をなさざる不意の時あれば憂慮煩累より逃れて生活すべし。諸君は神導き給へりと思意したることをなしたる後は常に退きて己れ正當なることを成せしや如何にと奇しむ事勿れ。諸君若し怪しまば病めるが如き状態に陥るならん。諸君若し眞に神意をなさんと願ひ且つ神の啓導を求めなば、而して諸君が神成さしめ給はんとて諸君を導き給へりと思ひし事を成すならば、諸君は其結果の如何に關はらず、諸君が正當なることをなしたりとの事によりて確かに安意し得

るなり。サタンは已れ若し妨げ得べくんば我等の幸福愉快なる基督者ならざる事を願ふや必せり然れども神は我等が毎日毎刻幸福愉快且つ穎敏なる基督者たる事を望み給ふ也。神は思ひに沈む事を我等に望み給はじされど喜ばんことを求め給ふなり(腓四)。最も秀れたる基督者なる一人の男子或る月曜日の朝前日の働きの失敗に終りたるを非常に憂慮ひて余に面會を求め來れり彼余に告げて曰く余は昨日日曜學校にて余の受持の組を教ゆるとき悪しきことを爲したりと。余は曰へり足下の受持の組に入る前に正直熱心に神よりの智慧を祈りたるや。彼曰く余は然なしたりと。余は足下は之を受くると期待せし乎。然り余亦曰く然らば神の約束に於て足下は神が足下に智慧を與へ給ふ事を疑ふの權利ある乎(雅一七)。彼の憂は拭ふが如く去り彼は微笑を含みて曰く余は疑ふの權利なしと。我等は神を信任する事を

學ばざる可からず。我等は若し我等の意志にして神に降服せしならんか神は我等が導かるゝよりも更に斷へず我等を導く事を喜び給ふ事を記憶せざる可からず。我等は常に何事に於ても神の我等を導き給ふを信せざる可からず而して譬へ我等が如何なる事をなすとも我等の期待を變じ給はざる事を信すべし。我等は決して思に沈むに非ずして唯神を信任すべきなり

我等は單純に神を信じて其光の中に歩まざる可からず。此方法によりて我等は生涯の各々轉機毎に歡喜平和強健及有要の材となり得るなり

基督者之成功終

明治四十年十二月十四日印刷
明治四十年十二月二十日發行

定價 上製四十錢
並製三十錢

翻譯者 新井正平

發行者 若林鑒太郎
東京市神田區駿河臺西紅梅町十二番地

印刷者 中村彌助
東京市京橋區日吉町十番地

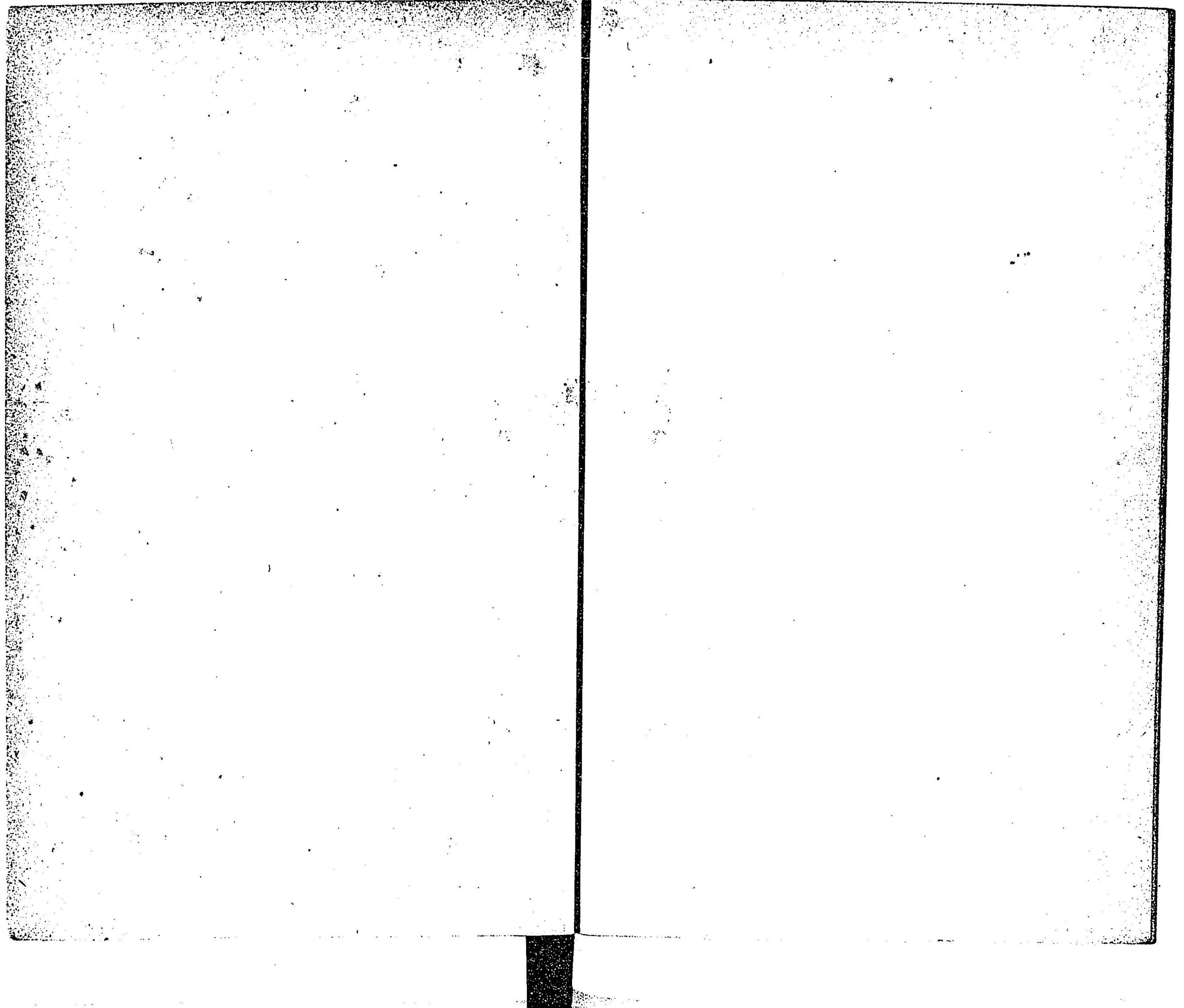
印刷所 近藤商店
東京市京橋區日吉町十番地

發兌

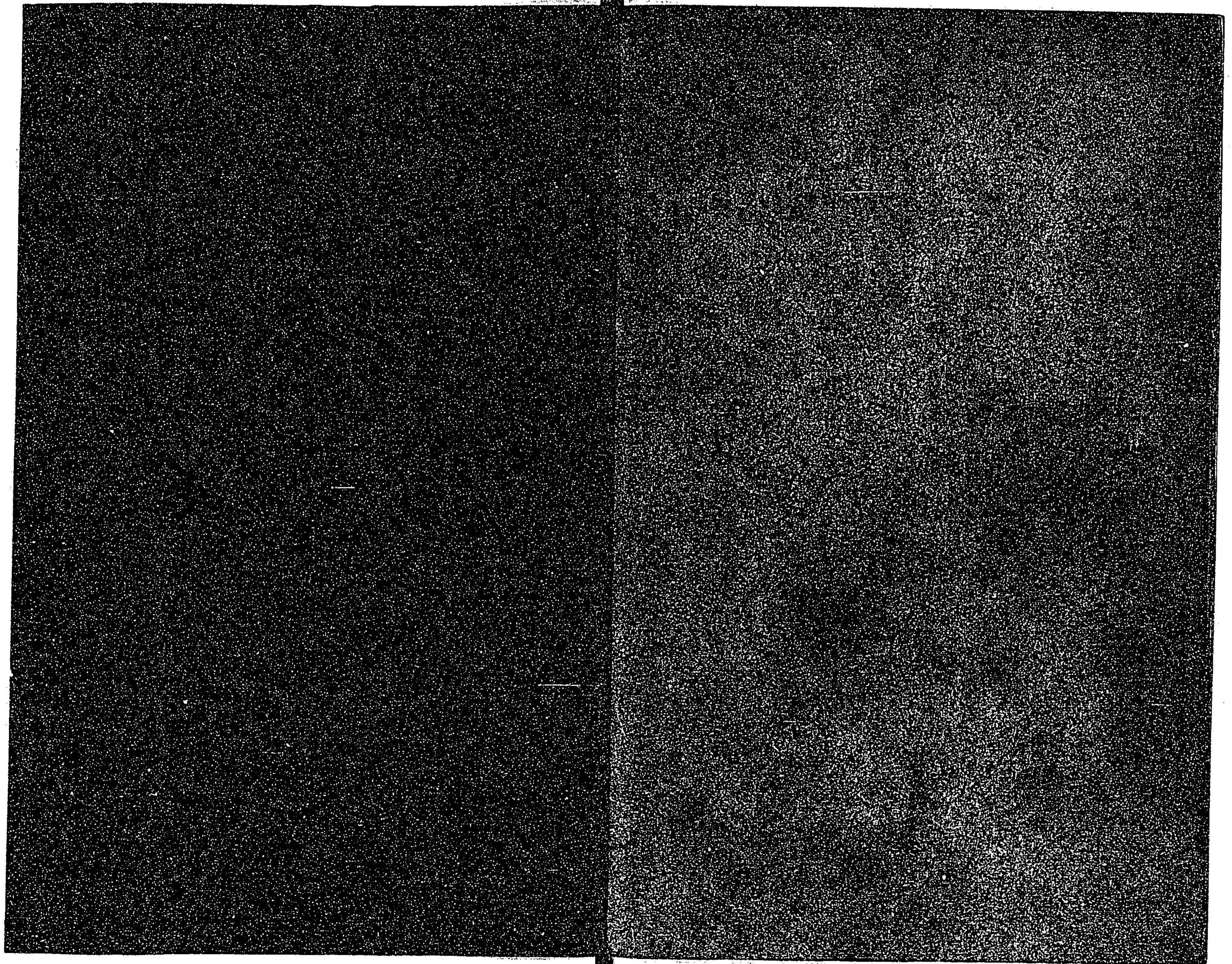
東京市神田區駿河臺西紅梅町十二番地

中庸堂書店

振替貯金口座六三三〇番



325
36



325
36

